

波ノ鳥

第 7 号 1986



室蘭市医師親交会誌

波ノ鳥

第 7 号 1 9 8 6

室蘭市医師親交会誌

目次

表紙
ワシベツ岬
カット
加藤 治良
竹内 隆一

親交会記念アルバム	1
-----------	---

中国素描	3
------	---

話題 男か女か(Ⅱ)	8
------------	---

しのぶ草	11
汗をかきながら足早に通り返した美食家―高橋繁介先生	上田 智夫

わが青春 「杏眼」…青春遥かなり	13
	千葉 寿良

グループ紹介―「精神科医会」	15
	遠藤 秀雄

大正っ子物語	16
冬の挿話・祝津かの頃	加藤 治良

座談会

「実年派・硬軟世相を斬る」

有賀 和雄 大川原修二 大鹿 徳洋
西里 弘二 山本 俊一 他編集委員

20

あんらくいす

あなたも作曲家

安斎 哲郎

私とマル寿のふたご

吉田勝太郎

猫の話

大鹿 徳洋

富士山頂の思い出あれこれ

高橋 陽夫

北海道ドクターズゴルフ第20回大会に出場して

森川 亮

親交会旅行記

池田 洋二
大久保 淳子
森田 益聿
青木 茂

37

編集室へのお便り

43

会員異動

編集後記

児玉 直彦

44

親交会記念アルバム



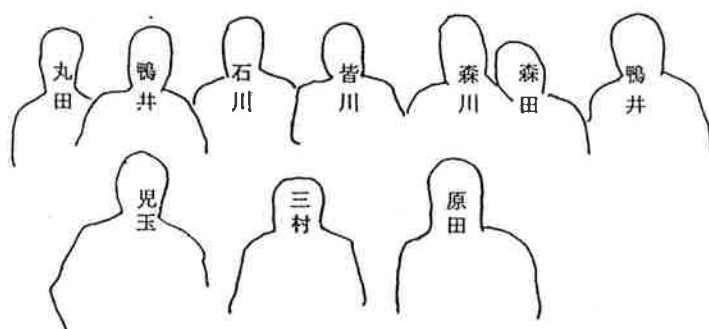
野幌「北海道開拓の村」

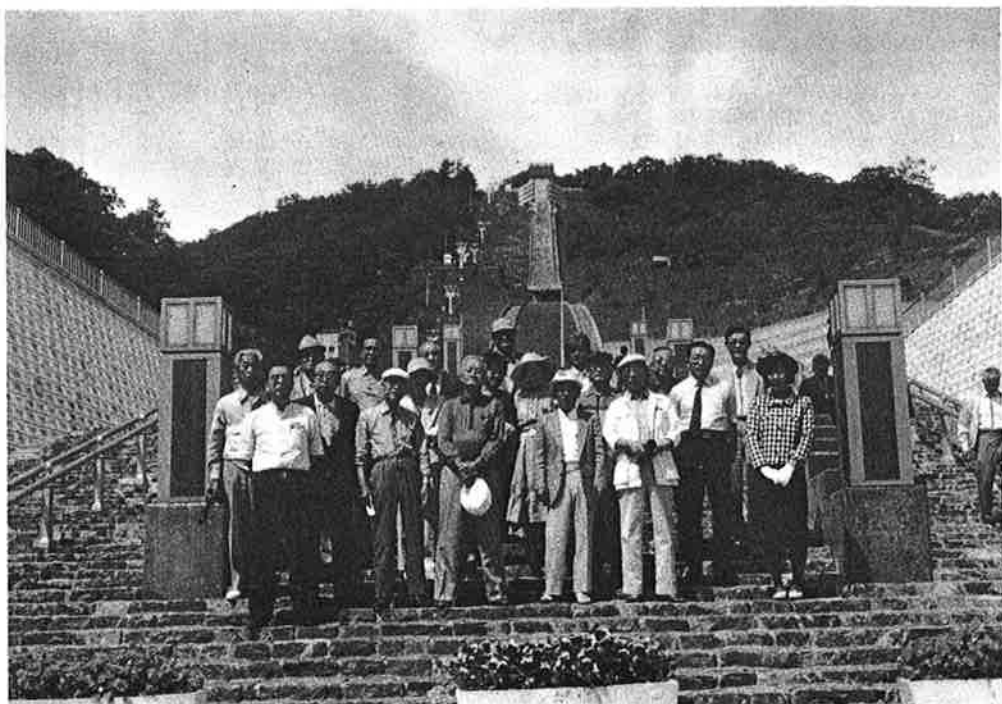
S. 61. 6. 28



札幌羊ヶ丘 G. C.

S. 61. 6. 29





大倉山シャンツェ

S. 61. 6. 29



「'86さっぽろ花と緑の博覧会」

S. 61. 6. 29



中国素描

斎藤義寛



I

早いもので私が精神医学を志すようになって三十三年になる。現代精神医学の歴史は、二世紀にわたるといわれているが、これは皆欧米で産まれたものである。だから、西洋文明の影響が大きい。

西洋文明というのは明治以来、私達日本人のあこがれの文明であった。だからそれは、非常に斬新で魅力的であるが、どこか異質的で納得できないところがある。私達がそれをそのまま納得いかないというと、それは日本人の後進性にあるのだから、欧米人並に納得しなければならぬ。納得できないのはお前の頭の構造が劣悪なのだからといわれたものである。いわれたばかりでなく自分でそう信じこんでいたといった方が正しいかも知れない。

ところがこの数年、中国人の留学生に接してみて、この文明は私達と同質であると思った。中国の留学生、特に四十歳以上の人に接してみると、そこには非常に高い道徳を身につけた日本人の古き良き時代（私にとつては昭和の初め）の人を感じる。更に驚くことには（実はあたりまえのことなのだが）同じ意味を持った漢字を共有している。

子供の頃、中国で偉い人のことを大人（たいじん）と呼ぶと聞いた。その人達は礼儀正しく、教養があり、友情にあつく、自己主張をすることがないという。

数年前から室蘭工業大学には、いつも何人かの大人が留学している。そしてそのうちの数人は、既に中国に帰っている。

II

このような人と親しくなれたのも不思議であるが、中国を訪れその人の家に食事に招かれるというのは想像もしていなかったことである。

林先生は背が高く、おも長で、いつも笑顔を絶やさない。水彩画と書が上手である。大人である。

瀋陽の林先生のアパートは規模の大きな公団住宅という感じで六畳ほどの居間が二つ、四畳半ほどのキッチン、そしてこれは木の格子のガラスで囲まれて、それが天井まで続いている。

そのキッチンに入るには小さな扉を開けなければならない。だから、どんなに多くの油を使用して料理を作っても、その煙や臭いは他の部屋には流れない。非常に合理的である。水洗便所もついている。

林先生は瀋陽工業大学の講師で、二年間室蘭工業大学に留学中に私達夫婦と仲良くなった。林先生は四十代で奥さんと重点高校の娘と中学生の息子の四人家族である。

小さなテーブルにのせきれないほどの料理が出る。奥さんは最初に挨拶に出たが、あとはキッチンにこもりっぱなしである。奥さんの姉妹といわれる人が二人、合計三人が夢中で料理を作っている。

一緒に食卓についているのは主人の林先生と私達夫婦それに一行の日本人三人、息子もその食卓には入ってこない。男女別あり、長幼序あり、何のことはない、これは戦前の私の両親の家に数人の客人が訪れて食事しているのと全く同じ光景である。ごちそうが日本料理から中国料理に変わっただけ。その料理の数が実に多い。二十種類を遥かに越えているように思ったが、私はとてもそれを数える意欲がなかった。とうてい全部を食べきれものではない。私達が食べた量の五倍以上の料理がそこに運ばれたような気がした。

あとかたづけも奥さん達の女性三人で、主人の林先生はもっぱら食卓で私達へのサービスにあたる。これは北京医科大学骨科整形外科の講師蔡先生（札幌の中野整形外科に一年留学）の家に招かれたときも同じであった。手伝いの女性が皆親戚であるというから、周囲には同族の人達が多くいるらしい。ここでは戦前の日本の街のように、何かがあると親戚同志で助け合っているのだろう。それに奥さんの職場はみな主人の職場の近所である。

中国には実に堅実な家族がある。それが皆夫婦随で最も高い水準の道徳が感じられる。さすがに孔子、孟子を生んだ国であると思う。

林先生のアパートの周囲には同型のアパートが建設中である。暖房は地域暖房ですぐ近くに大きな煙突のついたボイラー棟が見える。工事も大規模でまるで万里の長城の建設現場といった感じである。建物も皆六階で形も同じ。巨大な下水道管の工事も併行して始められていた。

北京に現在建設中のアパートは十六階建て、みな同じ型をしている。

III

金先生と長春の百貨店に行った。百貨店の品物はかなり豊富で自転車の部品のあらゆるものが揃っているのも珍しかった。ホンダのオートバイの新品が陳列されているのにも驚いた。オートバイは上海製よりは日本製が高価である。

金先生が私を呼ぶ。だまって指をさしているのでよく見ると何のへんてつもない洋服生地である。しかし驚いたことに台湾製と明示してあった。

一人っ子政策が普及してきたためか、子供があまりかされ、三輪車もよく売れている。百貨店はちよつと古めかしいが日本とあまり変りがない。ただ人が非常に多い。そして食堂がない。でも私達が行ったのはウィークデーだったのでそれほどこんではないなかつたが、日曜日は殺人的な混雑だそうである。売り子は礼儀正しい。しかし日本の百貨店よりサービスに対する態度はやや欠けているように思われる。品物を買うための行列に出合つたことは一度もなかった。

金先生夫婦と長春の自由市場に行った。自由市場は体育館のように広くて、中国で最も活気に満ちているように思った。

売る人買う人の目がきらきらと輝いている。しかし肉は枝肉をぶら下げて売っている。淡水魚は大きなのが一匹まである。これを買って料理する主婦の苦労は大変でないかと思った。しかし品物は山積みされておき、新鮮で品数も実に多い。

煙草の葉を売っていた。愛想のよいおばさんが器用にその葉を白い紙に巻いてくれた。その端をなめると云っているようなのでなめたら一本の煙草になった。マッチで火をつけてくれたので吸

うと、とてもおいしかった。

おばさんが笑う。私も笑う。そこにいたのは、昔の日本の八百屋にいた人のいい働き者のおばさんである。

金先生も四十代で、小ぶとりで温厚で貫禄がある。やはり室蘭工業大学の建築に二年間留学していた。吉林市東北電力学院建築の講師をしている。大人である。

夜の薄野を歩いていたら客引きに「社長」、「社長」とうるさくつきまとわれたそうである。愚妻が社長というあだなをつけた。同じ留学生からも「金」と呼ばれないで「社長」と呼ばれるようになった。そう呼ばれても不思議でない雰囲気を持ち主である。吉林から長春まで汽車で約二時間、わざわざ奥さんをつれて逢いにきてくれた。友人の家に泊っているという。何だか申し訳ない感じがした。

IV

瀋陽では瀋陽市精神病医院を訪れた。ここでは院長の李春苑先生がわざわざ車で迎えに来てくれた。李院長は、温顔で小ぶとり、小柄だがやはり大人という感じの人である。林先生が通訳を引き受けてくれた。

瀋陽に中国医科大学（旧満州医大）というのがあり、ここには神経内科があるが精神科はないとのことである。だから瀋陽市精神病医院の李院長が大学に出張講義に行っているとのことである。瀋陽市精神病医院は中国医科大学から自動車で約一時間半の距離にある。患者は八百名だが職員の数は一八六名、そのうち医師が二百名いるとのことである。図書室を見せてもらったが、日本の雑誌では「臨床精神医学」と「脳と神経」が置いてあった。欧米のものは「アメリカンジャーナルオブサイカイアトリー」、その他スカンジナビアの雑誌まで取り揃えてあった。但し、これら

は皆複製版で紙質は極めてわるい。そして後にたしか〔内部参考〕という判が押してあった。

この患者は殆ど分裂病のようである。素晴らしい広大な自然環境の中をパジャマのようなのを着て散策していた。病室のベッドのシーツは純白でよく洗濯されていて、昔の日本の古い精神病院にあった一種独特の悪臭はなかった。快復期の患者が広い部屋に集まっており、私達夫婦が行くと拍手で熱烈歓迎されたのにも驚いた。

更に驚いたのは見学が終ってから立派な会議室のような所に数十人の医師が集まっており、約四十分話をしてくれとの要請があった。通訳が工業大学の林先生なので十分伝わらなかったらしい。昨年、北大精神科の山下格先生がここを訪れた。山下先生の奥さんのお父さんが東大を出て、旧満州医大の精神科の教授をしていたという。

院長が山下先生は私の親しい友人であるから、あなたも私の友人であるという。山下先生からは聞いていたがこれも奇遇である。とんだところで日本のお偉い精神科医と間違われて随分得をしたと思った。

日本の精神病院の高齢化現象と比べて中国の精神病院は若くてピチピチしていて羨しいと思った。女性の患者には赤いマニキュアをしている人もいた。

建物は昔の松沢病院や国立武蔵療養所、北大病院の精神科に似ている。日字型または中庭を囲んで口の字型に作ってある。かなり古いものらしい。新設の五階建の病棟にはエレベーターもついていたが、私は広大な中国には平屋建の方が良いように思う。しかしこれも時代の流れで仕方ないことも知れない。薬局に行くと院長の奥さんが働いていた。林先生の奥さんもそうだが、実に柔和で人なつこい。薬を見せてもらったが、日本のコントミン

(クロールプロマジン)、セレネース(ハロペリドール)、炭酸リチウム、トフラニール(イミプラミン)、トリプタノール(アミトリプチン)、ドグマチール(スリピライド)、セルシン(ジアゼパム)など古い世代の向精神薬は全部置いてあった。しかし上海製である。漢方薬もあつたようであるが、私にはよく判らない。

なお中国の精神病院には進行麻痺はいない。アル中もない。老人性精神病もない。

I V I

北京の劉先生も室工大には二年留学した。愚妻を「おぐざん」と呼ぶ。これもあだ名となつてしまった。しかし北京ではとても偉く、煤炭科学研究院の副所長をしている。大人である。

北京医科大学第三医院に精神衛生研究所がある。これは一九四二年創立という。日本の旧帝国大学のどこの精神医学の教室よりも立派である。入院患者はやはり若い精神分裂病が大部分である。古い一流ホテルのロビーのような娯楽室があり、患者は談笑したり、ピンポンに興じていた。中庭も素晴らしく、バスケットボールをしている患者もいた。

数年前にアメリカに留学していたという王租新という若い精神科医から英語でペラペラ話かけられたのにはまいった。

日本の精神科医療のことを聞かれたので、

「日本の精神神経学会はまだ中国の文化大革命と同じ状態です」といった。これは劉先生がうまく通訳してくれたようで大笑いになった。

同じ第三医院に蔡先生の骨科がある。土木工事の盛んな中国では怪我人が多く、蔡先生は多忙を極めているらしい。

そんな中をさいて私達を精神病棟に案内し、更に自宅に呼んで御馳走をしてくれた。蔡先生は私と初対面である。しかし大人で

あることがすぐわかる。

しかしここでもう一つ驚いたことがある。たしか北京医科大学の学生は六、八〇〇人と聞いた。私はメモをとる習慣がないから数字のちよつとした間違いがあるかも知れないが、日本の医科大学とは一桁違う学生数である。

I VI I

ハルピンから長春まで汽車に乗った。文明列車と書いてある。前に乗った日本人のおばさんは、昭和二十年に長春に渡ったという。

「散兵線の花と散る」というのを私はここで見ましたからね」と言つて笑う。

「兵隊が一行に並んでくるでしょう。反対の方向からも来るのですよ」

どんなことを言うのかなと思つて聞いてみると、
「その兵隊達が、急に大地に伏せて撃ち合いになるのです」という。

広い広い東北地方の平野に太陽が沈む。赤い夕日である。山がなく、地平線がどこまでも続く。

どこまでも耕された畑である。蒔きつけが終つたばかりであろう。五月なので、まだ殆んど何も生えていない。その間に並木が続く。列車はゆつくりと進む。

「日本に来ていた引き揚げ孤児の両親は殆んど死んでいる筈です」
「私の子供は長春に埋めてあります。あの場所には千人以上の日本人が埋めてあります。うちの子供は病氣(発疹チフスらしい)で死んだから埋めてきましたけれど、そのとき私も死にかかつていました」という。

長春に着いたら、子供を埋めてある場所を捜したい。大体の見当がついているそうである。

そしてその人は、いま札幌にいますが、一年分の缶詰の買い置きがあるという。そして古い物から食べてゆく。食べ物がなくなくなったとき、一番貴重なのは缶詰なんだという言葉に実感があつた。弁当が出る。肉が多く食べきれない。カンビールが出る。ふたを開けると噴水のように吹き上げる。棒雑巾を持った若い女性の車掌がこぼれたビールをふいてくれる。

やはりここは中国である。

— VII —

私達は「中国の人はマンマンデーだから決して急ぐな。サービスが悪くても怒るな」と注意されていた。

しかしハルピン空港についたとき、その入国管理の人々は実に親切で笑顔をたやさなかった。パスポートは念入りに見られたが、持っていた荷物は全く調べない。

空港の外には日本製の立派なバスが待っており、中国人の女性の添乗員（三十歳位に見えた）のサービスはまた素晴らしい。その人の名前は魯という。

「魯迅の親戚ですか」

と聞くと

「孫です」

という。日本語の上手なこの女性に魯迅の孫だといわれると「はあーやつぱりそうだったのか」と思ってしまうから不思議なものである。

「本当に孫ですか」

更にもう一度聞いてみた。

やはり

「魯迅の孫です」

という。私がそれを信じかけたとき、その人は

「冗談です」

といつてニツコリ笑った。

北京の空港は噴水があつて、実に近代的で堂々としている。広い廊下には動く歩道もあり、エスカレーターもある。

しかしこの売店は物を売っていない。カルチュエとか、ルイビトンとかいうブランド製品を見ても近くに寄つてこない。煙草や酒も時々売り出して、そのとき日本人客、十人位の行列ができる。不思議な雰囲気である。

立派な廊下についているトイレに入った。水洗便所の水が出ない。前にした人の品物がそのまま残っている。我慢ができないので用をたしたが、洋式なので尻を浮かすのが大変である。それでもズボンに黄色いのがついてしまった。

しかしこのような目にあつたのは私だけ。他の水洗便所は水が出たという。トイレトペーパーはついていない。でも誰も怒る人はいない。

最も腹が立つたのは千歳空港の税関である。これはいやがらせといつてもいいものである。前の人が大きな荷物をあけられて調べられている。その後長い列ができていつまでも動かない。それでとられた金は数千円だったという。そんな人が何人かいた。私は免税外の煙草2カートンをボストンバッグにかくした。ぱれたら二千円払えばすむのである。私は中国帰りの日本人客の荷物は麻薬や覚醒剤などだけ調べればすむと思う。しかし、現状ではそれを入手することは難しいだろう。

お金持ちの国、輸出超過の国日本では、どんな高価な物を買つてきてもそれは喜んでよいことであると思う。中曽根首相に直訴したいような気もする。

今年になって司馬遼太郎の「アメリカ素描」がベストセラーとなつてゐる。著者はアメリカにたつた四十日滞在してこの本を書いたという。

私のこの度の旅行は六泊七日。しかしそれでも書く気になればこの本の半分位の量にはなりそうである。しかしどうせそんなものを書いて売れるわけがない。そのために患者の治療をおごなりにすれば斎藤医院はつぶれてしまう。

けれどもきばつて、この小文の題を「中国素描」にした。

話 題

男 か 女 か (Ⅱ)

吉 井 正 仁



「男か女か」という題で、北海道医報五百号（昭和五十五年十一月一日号）に拙文を寄稿したが、当時、某製薬メーカーが胎児の性別を知るために、唾液によるテストテープを発売しようとし、とかくの物議の末、遂に発売を中止したということがあった。その反対意見の中に、人口構成上の男女比が変り、男性優位になるというのがあった。それで私は、男性優位を心配するほど男性は優れているのか、むしろ女性の方が本質的には優れているのではないかと、種々の例証をあげて、むしろ女性優位の世界が来ることをこそ心配すべきではないか、などと警鐘的？な愚見を呈示したのである。北海道医報のエッセイなどあまり読む人もないだろうと思つていたが、世の中には結構ひまな人もいるもので、医者以外の方からもご意見を頂戴し、反対、賛成と一とき随分賑やかであつた。

最近の人口統計によると、出生数では男性の方が約七%多いが男性の死亡率が高いため、三〇歳代で男女ほぼ同数となり、四〇歳代で男女比が逆転し、以後高年になるに従い、女性の方が多くなる。勿論、女性の平均寿命が長いということもあるが、それとて生物学的には男性より優れている証左であるかもしれない。

初めての赤ちゃんを生む場合、旦那は男の子を願ひ、カミさんは女の子を願ひというのが一般的な人情であるのは判るが、最近のあのアンケートによれば、最初の子から女の子を願ひ、さらに次の子も女の子をと希望する夫婦が多くなつてきていると指摘している。カミさんの意見に同調してしまう夫婦が増えているのか、あるいは不況、経済摩擦などのギスギスした社会的背景と、非行、家庭内暴力、いじめなどの少年犯罪に対する戸惑いと虞れから、女の子に「穏やかさ、優しさ」を求めようとする夫婦の微妙な心情のあらわれであろうか。不況になるとペットを飼う人が増えるというのも判るような気がする。

さてそれでは夫婦の望み通り、女の子を生むにはどうすればいいのか。男女の生み分け法は種々あるが、これが絶対という具体的な方法はない。動物実験ではないから、理屈と実際のはざまがある。肉食すれば女の子が生れやすく、野菜を食べれば男の子が生まれやすいともいうが、肉の消費量が日本人より十倍も多いアメリカ人に女が多いという事実はない。

男をつくるY精子と女をつくるX精子を分離し、XまたはY精子を人工授精すれば、生み分けは可能である。これが最近話題になっているパーコール法と呼ばれる男女生み分けの方法の原理である。

現在一般的に行われている生み分け法は次の表のように概ね三つの方法があるが、成功率はパーコール法が最も高い。

男女生み分けの実態

- リン酸カルシウム服用排卵日性交法(男児希望)

3,014人出産のうち		
男 児	2,682人	
女 児	332人	
		成功率 89%
- 米酢の膣内塗布法 (女児希望)

2,303人出産のうち		
女 児	1,842人	
男 児	461人	
		成功率 80%
- パーコール法 (女児希望)

22人出産のうち		
女 児	20人	
男 児	2人	
		成功率91%

パーコール法は、パーコールという粘性液体に精液を混ぜ、一

分間二千回転の遠心分離によってX精子とY精子を分離し、下層にたまつたX精子を注入器で採り出して人工授精させる方法である。下層は九五%以上のX精子が占めることになるので、非常に高い確率で女児が出産できる。

パーコール法は元来、不妊症治療の目的で慶応の飯塚理八教授のグループが開発したものである。現在十組の夫婦のうち一組が不妊で悩んでいるが、その原因の大半は精子減少症である。普通は精液1ml中に約一億の精子がいるのに、七千万、あるいは四千万以下の人がかなりいる。当然受精もしにくくなるので、この精液を濃縮させて受精し易くしようという発想から開発された方法である。

精子には約一八%の異常精子が含まれているのが通例であり、普通に妊娠しても異常児が生まれることもあるが、パーコール法では液の中間層から上に異常精子が集まり、底部に集まるのは元気の良い正常な精子である。したがってこの方法では異常児出産のリスクは極めて小さくなるともいえる。しかし、このパーコール法による生み分けは、例によってマスコミ各社が騒ぎ出し、それに踊らされた評論家、宗教家の反対意見によって、日本医師会、学会などまでが倫理問題として討議の対象とし、喧騒のさなかに投ぜられていく。科学が生命に関与することに対する嫌悪感、安全性に対する懸念、更に「自然の摂理に背き、男女の人口比が崩れる」という人もいる。またしても男女比である。

生み分けを希望する人は、日本では推定五千人と言われ、そのうち男児を希望する人が二千六百人に対し、女児希望者二千四百人とほぼ拮抗しており、男児の死亡率が女児より高いことからみると、男女比はほとんど平均化される。

生み分け法は伴性遺伝による遺伝病を回避できる有効な方法でもある。生み分けを希望する人の二〇%強は遺伝病を恐れ、出産

をためらっている人達であるというレポートもある。血友病や夜盲症、仮性肥大性筋萎縮症などの遺伝病は、妻が潜在保因者ならば、その子供が男の子なら五〇%の確率で発症し、女の子なら、その五〇%は保因者となるが発症はしない。夫が色盲である場合、男の子供にはその遺伝子は伝わらず、女の子を通して男の孫に伝わるキルナークの法則というものがある。だから男の子を生めば色盲は回避できる。生み分けによって遺伝による発症が防げるのなら、その方法を選択すべきではなからうか。ただし、斜陽といわれる産婦人科医の金もうけ法だという声もあるが、開業医にとって、パーコール法は手間がかかり、メリットは少ない。

精子が卵子まで到達する過程で、酸性の度合が強ければX精子（女）が速く、アルカリ性が強ければY精子（男）が速くゴールする。膣内は酸性であるが、子宮内は頸管粘液を含めてアルカリ性である。そのあたりを考えて指導しているのが他の二つの方法である。

女の子を望む場合

①月経終了後、一日か二日おき程度に性交して、排卵期の二日前に最後の性交をする。

②最後の性交の時、米酢をうすめた水（一合の水に小匙一杯位）で膣内を洗浄し、十五分後に射精する。

③夫は浅く挿入したままで、妻がオルガスムを感じないうちに射精する。

④最後の性交のあと、一週間は禁欲する。

男の子を望む場合

①妻がリン酸カルシウムを主剤とした錠剤を四ヶ月以上服用する。

②月経後は完全禁欲して、排卵期に性交する。

③妻が強いオルガスムを感じるように、前戯にも時間をかけ

る。

④夫は深く挿入したままで射精する。

以上の二つの方法を基本として、その変法なども種々あるようであるが、この方法では、特に女の子を望む場合は、カミさんの欲求不満を残して、あっさり終るわけだから、アフターケアに慎重な配慮が必要であろう。齡をとってからの子に、女の子が多いというのも判るような気がする。

おなかの子が女の子か、男の子かということでは、昔から妊婦の顔が優しい感じであれば女の子だとか、おなかの形がとがっていれば男の子だといった種々の俗説がある。しかし、この分野では、近年超音波診断が著しい進歩をとげ、胎児性別についても、妊娠二〇週以後では九十九%判定が出来るようになった。

超音波診断については、現在使われている装置の出力では、胎児への影響は一応ないとされているが、完全に否定されている訳でもない。胎児の診断はなるべく速やかに、短時間で終るよう要望されており、その意味で、胎児の性別判定などは、必要以外みだりに行うべきではないと考える。しかし、あるアンケートによれば、診断によって、期待していた子と違っていても、生むと答えた人九三%強に対し、生みたくなないと答えた人は二%弱に過ぎなかったという。おなかの子の性別を知りたいという望みは妊婦やその家族の素朴な願いで、「ピンクの産衣を用意しよう」とか「鯉のぼりを買っておこう」などという親密感や安心感によるものが大部分であり、これによって中絶が増えるなどという心配は、まずなさそうである。

Ⅱしのぶ草Ⅱ



故
高橋 繁介先生

汗をかきながら 足早に通り返した美食家

上田 智夫

はじめに

波久鳥編集者から高橋先生の追憶記を依頼されたが、三木会とか三時会でより適当な人がいると思うが、折角の事なので私的な思い出として書いてみたい。

まず回想の意味で経歴をみてみる……

大正十二年九月 室蘭市生まれ

昭和二十三年 北大医学部卒業

昭和二十八年 美唄市立病院産婦人科医長。のち副院長

昭和三十四年 室蘭市輪西町にて婦人科医院開業

昭和三十八年 室蘭市医師会理事並びに医師親交会理事

昭和四十四年 室蘭サッカー協会会長

昭和四十五年 室蘭市医師会副会長

昭和四十七年 輪西町曙町会長

昭和五十二年 室蘭市体育協会功労賞

昭和五十四年四月二十七日 死去 享年五十五歳

医師会だけでなく、地域社会、スポーツ団体などでも重きをなしていたのがわかる。

スポーツ

堂々たる体格が示す通り、スポーツマンであった。美唄市立病院時代も、室蘭市医師会野球部でも、ファーストを守って中軸打者であった。ただ、野球部創設の昭和三十八年八月四日の対室蘭歯科医師会戦でアキレス腱を切り、戦列から離れてしまったのは当野球部の為に心残りとなった。

ちなみに、すぐ次の週の八月十一日には大岩選手が、昭和四十一年には細谷選手がアキレス腱を切っており、熟年野球の難かしさを感じさせられる。

足に負担がかからないという訳で、次に凝ったのがボウリングであった。地元の競技会とか、函館医師会との対抗試合とかをしているうちに、もちまへの熱中癖から病膏肓に入り、連盟の全国大会に出場するようになり、遂にシニアの部で優勝したのには驚いたものである。

最後にはじめてゴルフも、またたく間に上達したと聞いている。また地域においてもサッカー協会の会長となり、体育協会の功労

賞を受けている。

グルメ

おいしいものが好きで、三時会の集まりでも汗をかきながら良く食べた。東に中華のおいしい店があれば駆けつけ、西に新鮮な魚料理があれば距離を問題にしなかった。

パリに滞在中のお嬢さんをたずねて行った時にはフランス料理を堪能するとともにウイスキーやブランデーなどでなく、気に入ったフランスワインを大事にかかえて持って帰ってきた。

このグルメとしての気くばりが、命とりとなった発病の前年の親交会旅行会で、わざわざ現地に赴いて、小樽でかま栄のかまぼこを調達し、余市では鮎料理を昼食にしたほか、医師会用に桜桃の樹を一本確保し、帰り道の洞爺ではおみやげの和牛の手配までしていた。この面倒見のよさには、全く敬服するほか無かった。

三木会・医師会

この面倒見のよさで、当然の事ながら三木会（婦人科部会）でも重きをなすとともに、北母（北海道母性保護医協会）でも代議員会の副議長として活躍した。同時に、室蘭市医師会においても中島会長時代には庶務担当理事として、四十五年佐藤会長の時には副会長の重責を担った。臨床検査センターが開設早々で問題も多く、当直医の対策委員会では委員長として要望をとりまとめ、急病センター開設の端緒を作った。特に、日医の命運をかけた所謂「保険医総辞退」において、会の団結と外部との折衝に大変な苦勞があったかと思う。

北海道医師会では代議員をつとめ、北海道医師会館建設委員におされ、現在の立派な道医会館建設に腕をふるった。

闘病——そして

私達にはまことに唐突に思えたのだが、親交会の小樽旅行の年の秋頃から不調を訴えて、北大に入院して開腹したが胃癌は腹腔

に転移して除去出来なかった。永い闘病生活が、北大病院、日鋼病院とつづいたのだが、この間、常に明るく振るまって、何の不平も言わなかった。

今日では癌の告知の問題が、医学的に、倫理的に、宗教的に取り上げられ、半数以上が告知を是としている様である。然し医師として、友人として、面と向ってこの事を告げる勇氣も無く、単なる口先での御見舞を言わねばならぬ辛さ。また、医師である患者自身、闘病の途中からは気づきながらも、見舞う人達に知らない素振りやせねばならない辛さ。耐えがたかったであろうが、立派な最後であった。

亡くなられてから、御通夜に集った人達にまた驚きを新たに示した。医師会、薬業界は勿論であるが、町内会の人々、サッカー協会、ボーリング関係、PT会の多くの人々。更に奉職された美唄の市立病院からは、退職して二十年を過ぎているのに、当時の病院長先生をはじめ多数の人々が参列されたのである。人の真価は棺をおおって定まると言うが、先生の敬愛される姿を見た思いがする。

思えば繁介さん……誰も「しげゆき」とは呼ばずに「はんすけさん」と呼んだが……この「はんすけさん」の生涯は、あの大きな身体に世界各国の美味、珍味をつめこみ、美酒をあおって、汗をかきながら足早に通り返していったと言えよう。

私は今、繁介さんの享年五十五歳をはるかに過ぎてしまつて、いい人が早死してしまつたとの感を新たにしている。

わが青春

『杏眼』…青春遙かなり

千葉 寿 良

私が驚別の恵愛病院に院長として着任したのが昭和三十年で三十歳の時である。

それ迄の市立札幌病院精神科の時期が青春時代の前期とするなら、昭和四十年に現在地中登別で開業する迄の驚別での十年間はその後期である。かえり見れば、体力最も充実し良き仲間にも恵まれ、人生最良の時期を過すことが出来たと思っている。

札幌医大精神科から当時の中川秀三教授にお願した病院のスタッフには、現在全道の各地で病院長として活躍されている諸先生の若き姿があった。中でも私と共に診療の主柱になったのは、現・三恵病院院長の加藤和雄先生と、現在室蘭市医師会の貴重な存在として重責を果している飯島三男先生であつた。加藤先生は医学生頃から恵愛病院に来られたが、後で私と同門の北大第二解剖に入局され中枢神経系の研究で学位をおとりになり、精神科医として私の良き右腕となり略十年間公私に日夜行動と苦楽を共にした。飯島先生は偶然に小・中・大学と同じ道に進んだ仲間で、不思議な縁でまたまた同じ病院で働く事になったが、元々、彼には独自の持味があつた。気の合った三人で良く働き良く遊ぶ事ができたことを心から感謝する次第である。

さて、こんな状況の中で特に忘れることの出来ない一、二の思い出についてまとめてみたい。日常の心疲れる診療活動の中で私は年一回学会等を利用して一ヶ月程旅行に出ることにしていた。私は元来が単騎潜行型を好み、団体旅行等はあまり気の進む方ではなかった。日程の予定がとれると、公式の行事以外は相当ゆつたりしたスケジュールを組み、一夜泊れば次は車中かバスの人というよりは、初めから目的を定め根拠地がきまるとそこを中心に周辺までも徹底的に探訪・体験する方法をとっていた。九州には数回旅行したが何故かこの地の人情風土に興味を持った。別府などを旅の出発点とし打上げに再び泊るということもあつた。私達が生れた北海道とは色々な意味で対象的であり、例えば酒にしても北は

辛口でさらつとしたものが多く、南は甘口でトロリとしたのが特徴である。

イモを見てごらんさい。北の馬鈴薯一じゃがいもは掘り立てのものは皮も色白ですべすべし、勿論中身は純白に近く味も淡白でホコホコしておいしい。さつま芋の皮は赤味を帯び細い毛の様な根をつけたり、中身は黄味を帯び味は甘い。中には二つに割つてもスズが残っていることがある。魚にしても北のものは白身が大半で味もあっさりしている。これに反して南に行くに従い赤身のものが目立ち、味もこつてりしてくる。もち論例外もあるがこんな事を考えながら旅をするとうれしくなる。女性はどうでしょうか。氣候風土が生物に与える影響は色々の点で近似性があることを認めざるを得ない。

とに角、その時は、熊本に行ったら春雨堂に寄つてみようと思つていた。春雨堂は御存知肥後・いきの本舗である。私の頭の中には、この店、社長、商品に対する種々の情報があつて訪問したのだが、今となつてはその理由について判然と思ひ出されない。ただ、九州という非常に男性上位型さらに熊本もつこす等と男っぽい土地柄、西南戦争での熊本籠城ぶり等の中で、肥後・いきの存在が妙に私の関心と呼んだのは否定出来ない。熊本に着いて一旦旅館に落

着いた後、電話で社長とコンタクトする。ここら辺の所も私なりのやり方で、自分の予定変更もあり得るから何日も前に連絡しておくというようなことはしない。まあ、先方様に迷惑をかけないように其の日お会い出来なかつたらその時間帯は別な方を使って、次の日にでも。しかし今迄の経験で自分の思う通りになると考えて旅をする方だから。

幸運にも社長と電話で話が出来て「お待ちしております」と云うことだから、早速タクシーに乗る。店に着くと相当広い立派な応接室に通される。大きな机があつて血色の良い童顔の社長がニコニコして応対してくれる。大柄の美人秘書が大きなキーキとコピーを運んでくれる。一通りの説明や雑談の後で、「先生、ご覧になりますか」と言つて大テーブルのカバーをサーとはずす。テーブルの表面はガラスになつていて各種ずいき製品の商品陳列台に早替りしたのである。見なれたものもあるが、さすが本場なだけに種類も多い。私はすっかり感心して、帰えつたら僕のコレクションもこういう具合にしておけば楽しいなあ、と思つたりした。

知っている人は知つていると思うが、社長の説明でずいきを使用する時は事前に微温湯に浸しておくことが分つた。又、使用

後きれいに洗つておけば何回でも使える事も教わつた。社長は、ずいきを古典的に使用する時、つまり紐状のものを巻くときは刀の柄巻と同じ様に「ホレ、丁度真中をここに掛けて、一回廻して上で折り曲げると……」ズルクスの所より始まり、ドルザリスで一回廻して柄巻をしながら、それぞれの太さの中で次第に根元まで行き、最後は柄巻の終りの部分をしっかりと男結びすると使用中に絶対離脱しないことを自分で丁寧に説明してくれた。

「もち論エレクトロしてるのに装着するのですよ。何かの事情があつて、中に置き忘れた時はこの様にして取つて下さい」そのまゝにしておくと後で炎症を起す事もあるらしい。エレクトロしたものに柄巻されたずいきは正しく作動されれば、更に愛液を含んでふくれ上り、柄巻の部分は今で言うGスポット（数子天井と昔から言つていたサ）を刺戟し、あの「エグイ」味が微妙で我慢できない状況をもたらすとは……………。

又更に、最後の男結びの部分も決して無駄ではなくあの敏感な所に当るのですよ。私も感心しながら一方では心配にもなつて来た。いつもこんな事をしていたら癖にならないの。「絶対になりません。相手はこれによつて新しい体験を開発されることになりました」「先生、このずいきを使用した

二、三人の例をお聞かせ致しましょうか」社長は応接室の壁についているジャックにイヤホーンをさし込んで机上のテープを廻しはじめた。そう云えばジャックだけでも十ヶ所以上必要あればグループで聞くことも出来る工夫になつていた。二十九歳のFRANUの場合、三十四歳のWITWEの例等、しばしの間、社長と共に羽化登仙の境をお聞かせ頂くことになる。この間例の大型美人がお茶を入れ替えにやつてくる。社長は勿論平気、私はテレくさいが心と顔は別にしてじーっと我慢している。こんな状況を作つた社長もタダ者ではない。デモンストレーションとセミナーが終つて一呼吸する。

「あの、先生。北大の御出身なら児玉教授をご存知ではありませんか」ア、不思議な話だ。こんな所で我が大先生恩師の名前が出るとは。「あの方は本当に立派な学者です」ある時、北大第二解剖学教授・児玉作左エ門先生が社長と会う機会があり色々その道の話をしたことがある。女性はその頂点において同じ表情、目つきをするらしい。『これを杏眼と云う』『もし出来れば教授に書いてもらつて扁額にしたいのですが』私は恩師の足跡が偉大なことを再認識すると共に、自分も偶然弟子の一人としてその道を辿つていくことに感銘した。紹介状も

なく初めての出会いなのに色々なことがあつて、興奮してボーとなつて、帰道したら必ずその意向に添うように致しようと言つて仕舞つた。

歸えりには一セツトのずいきをお土産にいただき恐縮してしまい、私の希望追加分は無理にでも代金をお受取り願つた。その夜は熊本^のの街に出て女性は何か特別のよう^にに見えて、早々宿に帰り痛飲して寝た。夢の中で、白櫓をかけた熊本城の鎮台兵が西郷軍に向つて突撃している光景が現れたような気がしたが定かでない。

後日談がある。歸えつてから教室に向向いて児玉教授にその話をしたら、機嫌良くニコニコされて、その社長は知っているよと言われた。私は社長との約束を果たすために数ヶ月はかかった。

「君、実は杏眼の下に二文字があるのだよ。それは杏眼柔賦という中国古典にある言葉だ。女性はその時、目だけでなく肌は柔くシットリと汗ばんで相手の体に吸いつく様になるという意味で、これは社長にも誰にも言っていない。弟子の君だけに教えておこう」しばらく経つて、力強くそれでいて几帳面な立派な「杏眼」という揮毫を頂いた。「僕は官立大学の教授だから名前の所は少し変えておいたよ」なる程、よく見る^と署名の所は「左エ門之書」となっている。

本^に当に厳格でいて良く分る先生であつた。私は最初から二枚書いてもらうことにしてあつたので、一枚は早速熊本に送りもう一枚は額装して診察室にかけておいた。

加藤・飯島の両先生をはじめ色々な人達から、これはどう云う意味ですか、と聞かれた。

「杏林大学とか杏林薬品というのがあ^るでしよう。杏眼というのは医者^のの眼と云う意味だよ」私はしばらくの間はそう言つて答えておいた。二十年以上過ぎた今でも、気が向いてこの書をかける時はそう答えることにしている。

グループ紹介

「精神科医会」

遠藤 秀雄

この会の発祥は定かではない。精神科医会という名称も正式に決められたものではなく、いつの間にか定着した呼称である。会則もなければ、役職も決つてはいない。何となく小生が世話役の様なことをしている。この様な会が、十八年以上も続いている。

るから不思議である。推測するに、昭和三十三年七月から恵愛病院、佐藤病院（苦小牧）、伊達赤十字病院による職員の野球大会、麻雀大会及び患者さんのソフトボール大会が、定期的に行われる様になった。精神病院が新設される度にその数を増し、現在十一施設で「日胆地区精神病院連盟」という組織を作っている。最近、患者さんのソフトボール大会と職員の研修会を年一回づつ行っている。この組織が下地となつて、医師の交流が盛んとなり、勉強会が生れたものと思われる。

外部から講師を招き、年に二、三回定期的に勉強会を開く様になったのは、昭和四十四年頃からと記憶している。初回は、北大精神科講師高畑直彦先生（現札幌大教授）による「老人脳の組織病理学的変化」であつた。その後は、三大学をはじめ道内の精神科の多くの先生方から、それぞれの専門分野の講演を拝聴することができた。主として、精神病理、神経病理、神経症、てんかんからアルコール症、思春期の精神障害、精神病と文化、内容は多岐に亘っている。

また、留学から帰国された先生からは諸外国の精神科医療の現況や文化についても話を伺うことができたし、脳神経外科、眼科、心理学等の先生方にも講演をお願いし、その後の懇親会で、更に具体的なお話や、

質疑を交えてなごやかに幕が降りるのが常である。時には登別温泉で開くこともあるが、殆んどが室蘭市内で開催されるために日胆地区を対象にしてはいるが、出席率は当地区の先生方が圧倒的に多くなるのは、地理的にも止むを得ないことであろう。毎回出席者は十名前後で、小じんまりとまとまりがよく、活気があるのが特徴かと思われる。

この講演のほかにも、昭和五十六年頃までは、一―二ヶ月に一回づつ各先生方が持ち廻りで症例検討会が開かれ、かなり密度の濃い討議がくり広げられ、深夜にまで及ぶこともしばしばあった。各先生方の診療観の微妙な違いがで、なかなか味わい深いものがあつたが、いつも興味ある症例をそろえることは難かしく、診療の合間に準備をすることも手間のかかる作業であつたと思われ、いつの間にか自然消滅してしまつたことは残念なことである。

目下の所は、各自が余り負担にならず、知識が得られ、同じ分野の仲間と顔を合せて懇談が出来る会合形式に落ち着いているが、それぞれ個性豊かな先生方の集まりであり、今後、この会がどの様な方向に進んでゆくのか、興味深いものがある。

―大正つ子物語―

冬の挿話

加藤 治 良

ひきつけ

祝津分院は鍋島山の麓にある。己の家から歩いて五分とかならない。

早朝にかけて降つた十一月下旬の雪は五糎程につもつたが、正午近くには殆んど融けてしまつた。

午前中の患者は六・七人。雪が残っている日陰道の馬小屋の脇を抜けて家に戻る。味噌汁を一吸いしたところで、

「先生、まだ居るかい」ああよかった。星川のノリちゃんがヒキツケたの、たのむねっ」

大声が店に飛びこんで来て、飛び出て行つた。星川といえは直ぐ裏手の漁師だ。ノリちゃんといえは小学校に入つたかどうかの女の子だ。

半開きになつた玄関の土間から小山の様

な背中が見えた。おっかさん達が二・三人立つたり坐つたりしている。

「ほら、先生だよ。ノリちゃん、もう大丈夫だ」

松の枝みたいな太い指をひろげて馬乗りになつて居るのは岩本のおつかあだつた。それが、なんと……ちいちゃな首根っこをきつちり押えこんでいたから己は驚いた。「ウン、これがコツなのさ。ほれ、だんだんおさまつて行くべき。先生、早く注射してちょうだいや」

気圧され圧倒され、ただうなづくだけで己はアンブルを切る。

「ほらほら、虫が逃げていくよ。手と足の爪先から出ていくんだ」

上下二十本の指がピクピク動いて、すーっと緩んで……なる程「虫」が離れて行つたと見えるのだ。ノリちゃんは、ふうっと大きく一呼吸した。

「水、持つて来てや」

己の手洗いのことかと思つたら、
「大きい茶碗にだよ。やあや、力が要るもんだ。ホレこんなに汗かいたべき。でも、このノリちゃんはそのうでもないよ。松山のサツちゃんはひどかつた。あんな強い虫、わし見たこともなかつたヨ」

おっかさん達を相手に、己などは眼中にない。しかし面白いことを語るものだ。

熱を出す虫と、出さない虫とがあつて、お呪い・お経は先づ効果が無い。医者注射は勿論効くけれど、押えが一番だ。ただし、押える力の按配が肝腎なので、虫の尻を追い叩いて行く調子がむづかしいのだ、と言う。

ノリちゃんは普通の顔色にもどつて寝息は平静だ。もう一杯、お替りの茶碗をひと息に飲み干して、ふき出した額と胸の汗を拭ぐっている。

岩本のおつかあ、と近所の人達は呼んでいる。とに角、大きく頑丈そのものだ。水満々のバケツを両手に一つづつ、いとも軽々と運ぶ。どこで、いつ、どうなつたかは知らないが旦那は居ない。男と女の子がいる筈だ。——あの、おつかあぢや亭主も殺されるわナ——物騒な冗談を言っていた店の客が居た。

午後からは本院なので、これ以上拝聴する訳にはいかない。

分院に持つて行くよう、処方箋を書いてノリちゃんの母さんに渡した。

「まあ、これでおさまるべき。でも、なんかあつたら先生頼んだよ。ハシカかも知れないもんな」

立派なものだ。苦笑いして己は立上つた。戸外に出る。青空が拡がって、泥んこの道

から白い湯気が立ちのぼつていた。

岬越え

師走も半ばを過ぎて、クリスマス演奏会は七日後に迫つた。

森岡先輩のヴァイオリンと己のギターで二曲、スパニッシュセレナーデとソルヴェージの歌をプログラムに載せてある。どういう訳かソルヴェージの最後がいまだにびたりと合わない。いい調子で流れたときに限つてギターの小節が余るのだ。

ふしぎですネ、おかしいナ、と首をかしげている処に長坂、東里の二人が病棟から戻つて来た。

「森岡先生、当直でしょう。ぢや覚悟するか……また貰いましたよ、横関さんから例のすばらしいヤツ」

シユランケの奥から東里君が白い一升瓶を取り出す。五十二号室の横関さんは米処長沼町の農家のじい様で特製の油酒は絶品なのだ。

土曜日の午后三時、火鉢を囲んで独身医員四人の優雅な酒もりが始まる。肴は昼弁当のお惣菜の残しと買置き煮干だ。内科医局の窓硝子に粉雪がちらちらと踊りはじめた……。

七時のバスは結構、満員だった。窓に板

切れを打ちつけ、床板にも穴があいているオンボロだ。小橋内の煉瓦倉庫あたりでガラランガランと物凄いい音がした。突風でボンネットが外れ、飛ばされたのだ。

「又、やりやがつた」

運転手が舌打ちした。入口近くの二・三人の客も一緒に降りて風にあおられながら元通り被せ、バスが動き出す。

「針金が切れたんだと」

「こつちの風は違ふんだよなあ」

凍つた空気が車内に流れ、迷いこんだ雪片が己の鼻の頭で融けて消えた。

「エトモの田海さん、胃瘻瘻なんだつて。たつた今、権藤さんから電話あつたんだだけ……」

玄関の三和土でバタバタ雪を払う己に、おふくろの声だ。

仕方ないな。

日用雑貨の田舎デパートだから、吹雪の最中でも御用聞きと配達に店のあんちゃん達とはとび出して行く。それが当り前、馴れっこになつてゐるから己も格別の同情はされない。股のつけ根までのゴム長に穿きかえ、親父のインバネスと防寒帽子に全身を包みこんだ。懷中電燈の明るさが些か頼りないが、まあ、仕方ない。

一岬越えたエトモ部落、田海のとうさん

は島燈台の職員だ。米・味噌・醤油・食糧の類を日を定めて島に運び、あれこれの雑用を仕事にしている。

家並みを抜けて、鯨会社の左手の坂を上るあたりから風が強くなってきた。

一つ目のカーブを曲ると、いきなりの突風にインパネスの袖を吹き上げられ足を掬われた。立ち上った後の岬道は風と粉雪の分厚い壁だ。吹き溜りに三度はまり込み、突風に二度尻餅をつき——ようやく、部落の沢への下りにかかった。

暗闇の咆哮が少しおとなしくなり、島燈台の灯らしいものも漆黒のその辺りに芒とにじんで見えた。

部落の入口に権藤家と書いた提灯が揺れて立っていた。

「やあやあ、先生。ひどかったでしょう。すみませんなあ。連れて行ってもよかったですよ……でも、田海のやつ、ちょうど非番の日で助かりました」

権藤さんは部落の顔役で日用雑貨も売っている。分院の事務長でもあり、世事百般に詳しく鼻下に真四角の髭をこしらえている。

道路を挟んだ権藤さんの真向いの家で、田海のとうさんは背を丸めてうなっていた。モヒアト一本で眉間の皺がすーつと消える。

「胆・石・ぢやないかな。本院で一度検査してごらんよ」

傍で、かあさんが、

「そう言えば近頃よく痰や咳が出るもねえ、とうさん」 「バカ」

権藤さんが笑った。

何度も何度もお辞儀をされて表に出た。

「先生、熱いお茶でも一つ」

権藤さんの店で身仕度をする。奥さんが大きな五郎八茶碗を盆にのせて見えた。

おつ、いい香りの上燗。思わず、美味いと声が出た。

……………

長沼の油酒も誘い出されてきた。ソルヴェージュを歌いながら、己は吹雪の岬道をゆつくり慎重に歩いて行く。

追風が背中を支えてくれた。

シバレかせ

終戦三年目の年が明けて「寒」の最中に吉村の神様が熱を出して寝こんだ。

風もなく青い空。だが、シバレはピチツと定って空気の一粒々々が痛い程に頬を刺す日曜日の朝だった。

浜沿いに十戸ほど並んだ中の一軒、壁一面を祭壇で飾った部屋には昔ながらの炉が切つてあつて、二個の火鉢にかこまれた神

様は忙しい息をはいていた。

信心の極みなのか、つれ合いに先立たれ息子の戦死もからんでの発心でもあったのか。己の少年の頃は普通のおばさんだった筈だ。金精さん、とか金光教とか聞いたが病氣平癒、死靈生霊の呼び出し、運命予言に悩み事一切、特に病いの診立がよく当るそうだった。

洞爺湖の中島で水垢離修業中に四〇度の高熱を出し、とも角も昨日帰って来た仕末なのさ、と話し、

「じろさん、いやいや、先生。こんなでいたらくで恥づかしいネ。まだまだ信心の足らない証拠なのさ」

右背下の呼吸音が弱い。微かにハジケた音が聴えたようだ。三九・八度。

「おばさん、肺炎のなりかけかも知れないよ」

「いいや、先生には悪いけど、こりゃ風邪さ。シバレ・カゼさ。三日も寝てりや癒ってしまうさ」

ピタカンとバグノンの注射に、

「ひゃあ——痛いもんだ。なんせ生れて初めての注射だもんね」

今晚にでも熱下るかい？と言つて、なにやら口の中で唱えはじめた。

(シバレカゼ……面白い言葉だ)

この辺りの家は浜風除けの柵を背中にせおって並んでいる。荒蓆やらズック布やらで覆っているから、西風の強い日ならバタバタと賑やかに柵板を叩いているのだが、今朝はヒタリと凍みつき張りついていて、

浜に降りてみた。砂地は固土と同じで足跡も残らない。磯舟のいくつかは砂土堤に上げられ放しだ。

舟繋ぎの杭のつっぺんで鴉が一羽、首をすくめて沖を眺めている。磯波が光れば羽毛も輝いて、七彩の玉虫色が浮び上る。

——寒風や巫女肺炎の兆しあり——か。

中一日おいて神様の熱はすーんと下った。つぎの日には祭壇の前で太鼓をたたいていた。右背下の呼吸音は増えもせず強くもならずだが残っているから、己は心配だった。だが二日後、神様の姿は消えていた。寒修業の場に戻ったのだ。

祝津発、午後一番のバスが五人の客を乗せて走り出す。己の席は運転手の直ぐ後と定めてある。

モンペ、角巻姿のおっかさま達が三人、奥の席に並んで喋りはじめた。もともと地声が大きいかからエンジンの音なぞ物の数ではない。

「吉村のかあさん、肺炎やっただとサ」
「あのカミサマのかい。ありや、そしてど

うしたの。入院でもしたのかい」

「入院しないで癒ったんだとサ。かとうさんとこのホレ、市立に行ってる先生が診てたんだと」

「へえ——じろ先生も偉くなったもんだ。どうして、どうして神様ば癒したって訳だもんナ」

山岸の婆さんだ。己の項が痒くなる。

「吉村のかあさんも苦労した人だよ。親父亡くして息子は戦死だべさ。神様になったんだって五・六年にもなるかい。並みの人間ぢや無理だよ」

「戦争に負けたって勝ったって、わし等女は強いもんだ。丈夫なもんだ。なんせ、あんた、身代限りのアナ持つてるもんナ」

三人そろって高笑いだ。

運転手の肩がひくひく笑っている。車掌嬢はこわい横顔で聞えない振りをしている。

雪道のせいでバスの振動は少い。室蘭岳が細く上下して、その白さは真冬のままだが空の拡がりには心持ち和らいだ色合いに変ってきたようだ。

明日は節分である。

祝津かの頃

鯨骨沈むあたりかほの明く
燐光ゆれて浜暮るるなり

打ち寄せて渚埋めし軽石を
ひろひ拾ひて露路に敷きたり

浜植えの瘦せ薯なれどそのままに
潮水煮じて喰へば美味きも

毛ガニ盛りて大鉄釜は沸りたり
日焼けおぼの汗濡れし顔

酒好きの舟大工なり赫顔なり
低吟しつつ木楔を打つ

この溝はおばも跨ぐ子も列ぶ
馬の尿もながれ入る溝

薄氷ひろがる朝の埋立地
ハリハリ割りて歩くおもしろ

手拵ぐれば乗せてくれしよかの頃の
乗合バスは懐しきかな

座 談 会

「実年派・硬軟世相を斬る」

有 賀 和 雄 大川原 修 二 大 鹿 徳 洋
西 里 弘 二 山 本 俊 一
編集委員 (大久保・加藤・児玉・沢山・三村・村井・青木)

昭和61年7月23日

於 東室蘭「大 将」

加藤 悪天候の中たいへん御苦勞様です。前号は結局「四奇人の放談」という事になつてしまいました。が、今晚も引き続いての奇人座談会……という訳ではないんです。(笑) 若手でユニークな先生方に世相、人情、風俗について大いに批判のメスを振るって頂きたい、そのお顔振れでございます季節柄、禪一つというところで……では三村先生、司会をどうぞ。

実年期・その分析と対応

三村 まあ、私馴れてないので何から話そうかと色々考えたんですが、昔は人生五十年、現在は八十歳まで寿命が伸びています。私達の年代はクリエイティブ・イルネス……創造する病というか、肉体は落ちるけれど精神は昂揚して行く、というそんな時期で診療医療行為をしている訳ですが、壮年期をいかに乗切るのが大きい課題だと思います。日常診療の中で患者さんに対し、また先生方ご自身の問題として、いかに考え、やっていращしゃるか、そんな処から……。

(ほう、立派なスタートしましたねー笑。幼小青壮老と分けて実年というのは?)
三村 壮年と老人の間に実年期を入れたんです、厚生省で。
山本 昔は初老といったんだ。

大川原 外科の医者が言う老人は十年前迄は六十歳過ぎだったんですがね、去年、脳外科学会で老人性脳血管障害は一応六十五歳以上にしようと、大体なった様ですよ。
児玉 前立腺肥大症の手術はね、大学に居た当時は六十五歳以前でないと先づ手をつけなかつたんですよ。五十代の肥大はないと思われてたんです。今はあるんです、食生活の変化です。老人性肥大の手術は七十代後半が多いですよ。
沢山 透析の方では六十五歳以上です、老人は。

村井 女性の場合は卵巣機能の消長で区別します。性成熟期、更年期、老年期とね。更年期が四十代から五十代になってきています。



有 賀

有賀 白内障は四十歳からあります。あると言うだけですがね。自動車の法定視力などの問題もありますから、昔の様に成熟を待ってからではなしに手術をする人もいま

す——老人はやはり六十五歳以上でしょうな。

(六十五歳以上が老人。その前が実年ですね)

大川原 なぜ分けるの？理由がよくわからんけど。余計なお世話じゃないかね、厚生省も。(笑)

三村 統計では五十代の自殺が多くなっています。働き盛りの年齢で重症な患者さんに心身両面でどの様にアプローチというか説明なさるか……大川原先生どうですか？

大川原 は？意味がちょっと難しいけど……一級身障者七十余例の家族にアンケートとった事あるんですがネ。患者が男の場合は何年経っても面倒見たいというのが三割なんです。中年過ぎだと七割が毎日々々付添い、面会に来ます。女が寝ると半年過ぎると来なくなりますネ。(ほう——)

ウチなんか植物人間になると、あつという間に生保になるでしょう。六ヶ月経って治療費は要らないけど毎日付添いに来るから大変ですよ。話は飛ぶけど医療費の範囲が狭められてくると、癒るあてのない植物人間って事になると……ね、切実な問題が起きてきますよ。だから、家族には指導って事は特にしません。納得してもらいうり仕方ないですよ。

西里 心筋梗塞も突然ですね。家族も動転

していますから一週間の猶予期間をおくと対応出来る状態になります。しかし、一ヶ月経つと家族は看護疲れしてきますね。

癌はますます長いですから、猶予期間を患者の人生、家族の心の準備を如何にするか、ということに……。

有賀 交通事故以外では両眼一度に失明する事は先づないですから、何とか保存して結局は駄目だって事になるんで——その間じわり、じわりと患者さんに説明する、ということになりますね。

(咽喉の方ではどうですか)

大鹿 開業していると、悪性だとわかっても自分の所では治療出来ないから結局どこかへ送るんだけど。患者にはケース・バイケースで場合によってはある程度匂わす事もあります。一番困るのは癌ノイローゼの患者の場合なんですけど、うっかりした事は言えないの。診断がつかないから大学病院で詳しく検査を受けた方がいいよ、つてすめています。

大川原 先刻の話だけど、実年の自殺の頻度はどの位？

三村 厚生省のこないだの発表では百万人に對して二万三千人です。

大川原 四十五〜五十五歳が多くなりつつある訳ね。その為に分けたの？実年期を。いやあ別に先生がアレな訳じゃないけど。

(笑) 精神科的な分類なの？

有賀 医学的にじゃないんでしょう。新聞なんかは何と書くとか、熟年ではおかしいから……。

山本 うまいこと言つてアレ引退時期を伸ばして働いて事でないかな。年金当てにして五十五歳から引退されたらかなわないから。

西里 実年だからもっと働けということさ。山本 確かに栄養状態も変つて生理的にも変わった。三十年前は閉経期が三十七、八今は五十過ぎてもあるんでしょう。始まりも早くなった。しかし社会的には子供の時期が長いでしょう。世の中は変わつて来たんですよ、間違いない。

三村 いわゆる熟年離婚が増えてますね。女性の寿命が長くなつて夫離れた妻達……我々もふくめて如何に妻を満足させるか、(笑) という悩みですが……どうですか。

西里 人生再婚説というのは林さんが言い出したんでしょう。

大川原 俺は何故再婚するかと思うんだ。五年も十年もかけて、やっと自分の好きな様に何とか、だましまし来たのにサ。

例えば、おっちゃん死んでサ、又、新しい女を貰おうとは決して思わないよ。食い扶持を稼いで自分の趣味ダメにしてまでもネ。(笑)

(いや、却って良くなる人もありますよ。ガクッと肩を落した人は当然再婚説は言わないもの)

西里 女の生命が長くなった事は関係ないと思うよ。社会的規範があったけど明治の女の人は最終的に強いものを持っていた。死を目の前に置いて生きていた時代と、或る程度遠く離れて見える現代の人達との違いもあると思う。戦争などの強制的な死に直面する事は先ずないから今と昔の二十代の考え方だって違っているんだ。

大川原 俺達の世代だったら十五か十八で働く人間が七割位かな。今は二十二位迄は働かなくともよい期間がある。親の方も四、五年働く期間がのびた。西里先生は働く事は善い事だと言ってたけど、俺は本来ヨクナイ事と思うんだ。(笑)

ぶらぶらしてるのが一番いい。なぜ六十五迄七十迄稼がなければならぬの。

西里 稼ぐと働くとは違うよ。働くつてのは身体を動かすという意味さ。

大川原 そうかい、それなら判る。

西里 昔の人生は仕事やめてから十年で終わってたけど、今は二十年。ぶらぶらって言うけど何するの？男なんて仕事やめたら何も為る事ない。大川原説には基本的には賛成だけど、好きな事やって身体動かせたら最高さ。

大鹿 今は食えないから仕方なく働いているんだネ。

山本 五十五で停年になるでしょう。第二の人生がないでしょう。だからイライラが出てくるのさ。

当節女性その批判

加藤 人間はね、生物界の原則から外れた道を強いられたつあるんじゃないかな。カマキリもサソリも結婚式の夜、オスはメスに食べられてしまう。役目は終わったからね。男性優位感の錯覚であり幻覚じゃないだろうか。

西里 人間も最終的には、たとえば船が沈没する時、一番先に助けられるのは女と子供ですよね、男は最後。これは原則にのっとってますよ。

大川原 アメリカではね、ウーマンリブが発達し過ぎたから、これからはもう止めようって言った奴がいる。女が外に出て稼いでサ、そりゃいいよ。でも、いざ仕事を止めたらどうする？男の場合より厳しいと思うよ。

山本 女は今、男の上位に入れると言っただけ。男はいつて来ているわけだ。だけど女が皆男と平等にやらなきゃならんとなるとネ、男だって一人前に生きて行かなきゃならん。

結局は好きでもない仕事について人生面白くなくなる男が一杯出るわけ。女は今、憧れから商船学校だ何だって言うけど、必ず何かやらなきゃならんとなると……男の悲劇が判ってないんだ、と思うよ。(笑)

大鹿 本当に生活の為に働いている女の人間となると余りいないと思うよ。小学校の先生が言っていたけど、収入をね、自分の楽しみに使う母親の子供はダメになっちゃうそうだよ。

大川原 学校の先生っていえば、楽しみながら働いてます、と言った先生いたけどネこんなフラチな話はないね。次代を担う人間をつくる仕事が好きながら出来るなんてことはあり得ないよ。間違っているよ。ガキの方は苦しみしかないのに。(笑)

児玉 今は授業終ると警備員に替るでしょう。子供と遊ぼうにも場所も暇もないんだね。我々の時は先生と遊んだ記憶が先ず浮かんで来るんだ。この間アボイ岳に登った時、先生が十四、五人の小学生を連れて来たの。呼吸がピッタリ合っている光景でしたよ。珍しいんだよね、現今は。

山本 今はね、スタンドプレイとして牽制受けるんじゃないかな。教室に残して教えるのと、何か入るらしいよ。

加藤 七、八年前から殊に目立つんだけど中学から高校生で母親がびったり付いて来

てネ、子供に何聞いてもその度に母親の顔を振向いて、答えるのは全てお母ちゃん。

(そうだ、あるある)

大鹿 お母ちゃんが「耳痛いんですの」と言う。子供に、痛むかい？つて聞くと「いや痛くない」……どこ悪いんだ。(笑)

大川原 シツオや鬱病が間違つて来る事あったんだけど、お袋さんしか喋らんネ。貴女は黙っていなさい、つて言っても駄目なんだ。あれ、精神科ではどうなの？

三村 全くその通り。

大川原 絶対子供に喋らさんネ。あれはお袋さんが病気作っているんだ。(笑)

(男でもない女でもない、アイマイモコとした若い人が増えている様だけど、時期が来ればよくなるんだろうか)

山本 もつと悪くなりますよ。今の子供は数が少ない、親は金がないと言うけど、昔にしたら金持の坊ちゃん嬢ちゃんですよ。母親という召使いに育てられて自惚れというか、プライドがある。それが学校に行くとか徹底競争で上下からやられますからネ。プライドが傷ついてますよ今の子供達は。だから、そのまま潰れてゆくか、目立ちたがり屋になるか、どっちかだと思うね。

昔みたいにミソッカス扱いされて仲間の中で実力で地位を取って来た子はいない。落語の与太郎みたいな息子ばかりだと俺は

思っているよ。

(母親を殴るのは乳母を責める心理かな)



西里

西里 現代には絶対的価値がない。先生の価値も薄らいでしまつて何でも平等。だから、うちの子も頑張りさえすればという願望は生れるんだ。

大川原 仕事から帰つて酒ばかり呑みでる親父、そんな長屋的な家とネ、万巻の書物に囲まれて育つた家庭の子供とでは差がつくのが当然さ。それを今は差をつけたら駄目つて安直に言うし、価値観は混乱しているから……絶対平等なんてある筈がないのに……そんなの幻想なんだよ。

児玉 幼稚園、小学校の時はちゃんと挨拶していたのに中学に入ると全然しなくなる(しつけ)が大切なんだ、家庭の。

大川原 今の三十から四十代の女が一番悪いんだ。日教組の全盛時代に生まれ学校で皆平等で育つて来たんだ。その母の子供だ

ものいいガキ出来るわけないさ。(笑)

大鹿 時間外に電話来てね、男は大体が申訳ありませんが、と言うけど、お母さん達は頭ごなしに「ウチの子供耳痛いの診て」つて圧倒的に多いの。

(村井先生、女性がやられてますけど……どうですか？)

村井 ……女の一生は卵巣機能で判然と分れていた訳ですよ。メンスが始まれば女になつたんだ、止まるまでは性成熟期を自覚している訳です。ホーデンの機能と男の一生とは……どうですかね。(？)

その自覚して来た秩序を乱す様な行動をしているのが現代だと思ふんです。女性の平均寿命が伸びたのも今迄の女性が伸びたのであつて、秩序を乱す様であればそれがストレスになつて、恐らくこれからの女性の寿命はそんなに伸びて来ないと思ふんです。(成程……皆うなづく)

三村 昔は悲劇下にある女の一生というものを用意にしていたと思う。今はそれに反抗していますからね、ストレスは段々大きくなると思います。

山本 男があればこれ言つても女に聞いてみないとわからんよ。(笑)

思うんだけどね、女性は本来、野性的要素が多いんだ。だから昔は社会的行動の驕が必要だった。それを野放図にしたから非道

いのが出て来たんだ。掴まえた狐の子を三米の縄でしばって飼ってネ、さて野性に放そうとしても半径三米の円から出ないんだって。騾は本来そういうものだよ。(笑)
(有賀先生、眼科医の目から見ての感想ありませんか?)
有賀 いやあ、拝聴している方が面白いですよ。

当節風俗その批判

大川原 現在の女性には殊に「恥ずかしさ」がなくなつた。売春やつてさ、自分の身体売って何悪いって言う。本当に恥ずべき事なんだ。

山本 恥ずかしいってのは、何を何処まで自分のプライバシーにするか、と言う事なんだけど、その意味では女性にはないんだ。プライバシーは元来は男のものなんだ。

(笑) その代り温かみは女性の方がずいっとある。冗談に反応してくれるのは男ではなく女性の患者さ。

大鹿 俺んところは冗談言つても聞こえないもネ。(笑)

三村 女性の意識をちゃんと掴まえている先生は流行っているんじゃないですか。営業マンでもね。

(この後、現代性風俗いわゆる昭和元禄の

諸相について、名論卓説、奇論異説が入り乱れ百家争鳴の観を呈したが、紙数の都合で大方を割愛——あしからず)

大川原 同性愛はやはり異常として分類されてるの? 今も昔も。

三村 そうです。

大川原 そんな事ないんじゃないかな。大多数の人間がそうだから正常ともいえないどんな形でも異常ともいえない。本人が異常と思うかどうか……。

三村 対象が異常なんです。

西里 生殖の本義から見ると。だから異性愛は正常。

三村 そうですね。

大川原 ああ、そう、ふーん。(笑)

大久保 昔ありましたね、〇〇〇や×××あれ字数を勘定するとよく判つたでしょう。大川原 トルストイの「復活」でさえあつたよ。

山本 森鷗外の「キタ・セクスサリス」

大川原 四、五年前その全集出たでしょうA4版の厚いやつだよ。そしてね、×××の全問正解だったら賞品くれるって。

加藤 浮世絵、危な絵に書いてありましたね、みみずの這つた様な文字。あれが読みたくて解りたくて——ね。苦勞したなあ。

山本 古典を自然に覚えるかい。(笑)

加藤 怖れと妖しさがつきまといつてネ。

山本 今それがないから駄目。陰がない。感動がないんだ。

大久保 すべて視覚的、ストレートだから。



山 本

山本 この間ね、例の代議士が弁明書を読んでいるのを聞いて、俺吹き出したね。

十年の歳月をヒヤす……つて一瞬間のことでだろうと思つた。ツイヤすでしょう。費用の費だもんね。(笑) いや俺だつて間違えるよ。でも自分の弁明くらい自分で書かないとね。

大川原 総理大臣の施政方針演説だつて本人は書かない。大臣の答弁だつて同じさ。自分の意見を言うのと失言だつてやられるんだ。(笑) でも政治家はすごい勉強するつてね。大臣に就任すると三ヶ月位びっちり勉強するそうだよ。それでクリア出来ない物にやらんから、半年位で首だそう。俺達医者よりずっと勉強するつて話。

西里 大臣は政治家でなければ駄目なの?

大川原 今迄素人が文部大臣やって良かったことないよ。やっぱり餅は餅屋さ。

山本 「十年間の年月をヒヤした」代議士だけど、あれはね、交通違反と同じ様に扱うよ。掴まった以上は立前として、何等かの形で罰金払わなきゃ示しがつかないもの。結果的に、あれを罰金と見るか辞める迄を罰金と見るかは額が多いか少ないか、ということ。罰金で済むか、行政処分を受けるか、それが問題なのさ。本人にしてみたら、あんな事なかったら大臣の一回か二回やっていたと思うもの。

児玉 国会議員も特別国家公務員でしよう他の公務員だったら辞めざるを得ない。当然、首でしょう。われわれ医師の場合だってミスに対しては刑事上と民事上の責任を負うんだ、という覚悟を持てと言われますよね。

（国会議員の特権ですね）

大川原 執行猶予になると前科がつかないもの。

児玉 普通の人達だったら少くとも官公署には勤められないね。

山本 法律つてのはね、我々の立場でとかそういうものじゃないですよ。この線越えたらいいとか悪いとか、そういう事だから。大川原 最終的にはね、恥を恥と思わないんだ。

加藤 誰の場合でも身内、友人は庇う——というナニワ節の世界は存在するんだけど地元としても歴史のある街は強いね。室蘭だったら冷たいんじゃないかな。

室蘭という街



大川原

大川原 俺は元々他所者で突然室蘭に来て思っただけけど、非常に面白い街だよ。

これだけ歴史のある街でね、まあ、稼ぎ人の町でね。新日鉄、日鋼さえあれば何もいらない、今迄の歴代市長が言ってきた、そんな町何処にある？地元資本の蓄積は皆無らしいし今になって焦ったって街が無くなるんでないか、と思ってるよ。だから文化が無いなんて言われても当然なんだ。

児玉 おれも室蘭に来た時、清水町に住んだんだけどね、隣に高校の校長さんが居るんだよ。それが我々と同じ2DKなんだ。

ほんとうに文化不毛の土地だと思ったね。

大久保 うん、それは認める。（笑）

大川原 面白い街だよ。

大久保 ちつとも面白くないよ。（笑）

大川原 百年近くなるのにさ。有名人いるかい？悪人にしろ善人にしろさ。

大久保 医師会では今、辺縁地とか何とか言ってるけど蘭西は中心地だったんだよ。

だから、それなりの文化はあったんだ。

大川原 文化というものはね、或程度お金がなければ駄目さ。平等な社会に於て富の蓄積がなければ発育しないんだ。パトロンもいなければ駄目なんだ。

大久保 日鋼、日鉄依存の街だったでしょう軍需最盛期の頃から今だにその意識が続いていてね。

西里 函館の市立病院が焼けたとき、建増の資金を出したのは市ではなく有志なんですよ。

大久保 函館では市立病院と言わないもね「函病」と呼んでいる。

加藤 別な見方をするとネ、日鋼、日鉄を除くと下町が九割九分で山の手が一分だったの。だから文化は生まれなかった。せめて七―三の割でないかね。文化の意味はともかく……。

三村 流浪の民が集った、ということもネ、ルロウノタミ……。

児玉 ちよつと違うだろうけど。(笑)

加藤 優秀なザーメンの放出現象が続いた。近頃は回帰現象だと言われているけど。

西里 部落単位意識は結構ありますよ。

商店街が何かやるということもネ、現実には。

大久保 昔から部落単位、地域単位なの。

うちに来る患者さんがね、明日はお祭りだと言っただけで、それが一人一人違う町から来ているの。ぼく達の子供の頃は「八幡さん」だけが室蘭のお祭りだと思っていたの。だから何かイベントをやるといつても纏まらないんですよ。

三村 六十三もお祭りあるんだろうか。

加藤 「伏見稲荷」や「出雲大社」、個人のお祭りも入れるとありますよ。

(行く度に思うんだけど、あの広大な谷地に、よくもまあ立派な街が出来たものだ、信じられない)

大久保 室蘭に帰って来た当時、カルテに宮の森と書いてあるの見てネ、そんな町は室蘭にないと思うから、どこの人?ま違いじゃないの?いや、ちゃんとありますよ…

(笑)

青木 私、二十二、三年頃に今の工大に通っていましてね。鷺別駅に止まる汽車に乗遅れると東室蘭で降りるんです。ホームから今の宮の森を通って高砂通って学校まで歩くんです。その間、五、六軒も家あった

かどうかでしたよ。

大鹿 三十五年に来たんだけど、先見の明があったら全部買占めていたなあ。もっとも金はなかったけどネ。(笑)

どうやら金ができた時には、もう買占められていた。(笑)

有賀 ぼくは中学は福島ですから、一年半だけ栄高校でその後は東京になりますからまったく不案内です。ミサキは見当もつかないし、モトワニシなんか全然わかりませんね。

雨は小降りに



大 鹿

大鹿 フリーターキングだつていうから色々考えて来たんだけど、高等な雰囲気全部引っこんでしまったよ。女性論といたつて八十歳の婆ちゃんの話だもネ。(笑)

三村 ふふふふ。

沢山 今日のメンバーではね、共通する処

は一つもない。まあ一つ位はあるかな。でもね、趣味その他のテーマをあげても銘々の個性でバラバラになるという処に……選んだ趣向があつたんですよ。

大鹿 学生時代の失敗談とか猫の話とか、準備して来たものは全部ひつかからないの。(笑)

西里 いや、いいよ。これからやろうよ。

山本 俺もね、今の自己なんとか生涯なんとか。あれでも訊かれるのになって覚悟して来たんだ。俺は反対と書いたから。

三村 生涯教育つてアレ何でしょう。

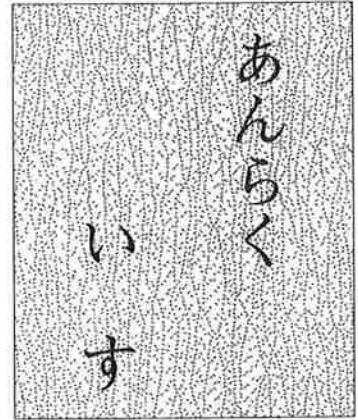
西里 先生、最初からソレやればよかったんですよ。(笑)

(税、審査、医師会の在り方など一しきり……どうやら風雨も納まった気配で)

三村 司会の不慣れはお詫びしますが、ユニークなご意見、批判、さらに後半には相当シビアな医師会でもオープンでは非討論して欲しい問題も出ました。編集委員としては成功だったと思います。

(高等なテーマで酔えなかった人もいたけどね——笑)

それではお忙しいところ、雨の中ご苦労様でした。(拍手)



あなたも作曲家

安 斎 哲 郎

「音楽馬鹿の記」に始まって、「おたまじゃくしの生い立ち」「ぼうふら考現学」と引き続き紙面を汚して参りましたが、日頃カラオケ以外には音楽に縁の無い諸兄も、世の中にはこんなことに夢中になっている男もいるものだと、少しは関心を持って戴けたでしょうか。さてこの音楽シリーズ、これだけで終っては惜しいとおだてて下さる方もいるものだから、厚かましくも四たび登場致します。このたびのテーマは少し

く高級な話題として音楽美学と行きましようか。つまり貴方が若し作曲を思い立ったら何をどうすればよいか、という手引きです。

なぜこんなことを話題にするかと言えば、私自身最近作曲や編曲をさせられる機会が重なって、嫌でも錆び刀を研がなければならぬ事情があつての思ひつきという次第です。三月に苫小牧のある教会からの依頼で讃美歌をメドレーにした弦楽四重奏曲を作り、六月には日本交通医学会のアトラクションとして、「演歌で綴る北海道の旅」なる弦楽合奏曲を自作自演させられ、引き続いて八月に市民劇場として開催する「青少年育成コンサート・協奏曲の夕べ」に上演する曲目のうち一曲が総譜入手不能なためピアノ譜からオーケストラへと編曲を余儀なくさせられ、またこの拙文を書いている現在は室蘭ロータリークラブの創立五十周年記念のオリジナル・クラブソングの作曲や、アトラクション用の室蘭音頭、室蘭小唄の混声合唱つきオーケストラ楽譜への編曲をさせられているという次第です。

文学作品の美の要素には内容すなわち作者の訴えんとすること、それを表現するための筋書き（プロット）の構成、文章の美しさなどがあると思いますが、音楽作品についても全く同じことが言えます。ただ文

学とは違って、音楽の言語は論理文ではありませんから、鑑賞の為には感覚と直感以外になんの論理も要らないのですが、創作の為にはそれ相応の文法を覚えなければなりません。楽典、旋律学、和声学、対位法などがその文法や修辭辞に相当するもので、プロットの構成法に相当する学問としては楽式論と管弦楽法とがあります。一口に作曲学と言ってもこれだけの科目があるので、楽典というのは楽譜を書く為の約束ごとの最少限の知識を教えるもので、それをマスターしたら和声学と対位法を習うのが普通です。和声学とは音律の違う二つ以上の音が同時に鳴ったらどんな響きになるか、というだけのもので、振動数が整数比なら協和音、それ以外なら不協和音ということになります。協和、不協和とは要するに不快ということです。物理学や数学としては甚だ単純ですが、問題はむしろ心理学という方が近いでしょう。そのさまじまな響きが時間的に連続した時の不快も和声学の守備範囲です。対位法と和声学との区別はやや微妙ですが、対位法というのは二つ以上の旋律が同時に鳴ったらどんな響きになるか、という学問です。先述の「演歌で綴る北海道の旅」の中に「津軽海峡冬景色」と「涙の連絡船」とが二小節遅れて同時進行する部分がありますが、これ

が対位法の技術です。旋律学というのは心を打つメロディを作る技術ですが、その才能は先天的なものですから、勉強したからといって特に才能が延びるわけでは無いようです。私も昔勉強させられましたが、その中で覚えていたのは「高い音を弱拍に置くと可憐（ないしコケティッシュ）になる」という一項だけです、それを教えてくれた先生自身、さっぱり売れない作曲家でした。

これだけの文法をマスターすれば曲が書けるかというところで無く、響きの羅列だけでは音楽とは言えないのです。起承転結が無ければならないからです。楽式論というのがその為の学問です。歌詞が四行で書ける歌謡曲は文字通り起承転結で、これが曲の最小単位ですが、大交響曲の楽章構成やその中の各楽章の構造まですべてこの楽式論で教えられる。たとえばバロック時代のリトルネッロやフーガの形式を發展させてモツァルトやハイデン、さらにベートーヴェンが完成させたソナタ形式というのが楽式の王様で、その従兄弟とも言うべきロンド形式や変奏曲形式などをこれと組合わせて大曲が構成されます。器楽ならその時どんな楽器をどう組合わせるかというのが管弦楽法で、各楽器の性能を知り抜いて、その楽器の性能を充分に發揮させるに

はどんな音域でどんな形の旋律を演奏させるのが効果的か、また二つ以上の楽器が同時に鳴ればどんな音色になるか、などを学ぶわけですね。つまり楽式論の知識が作曲家にとつて構図を決めるためのコンテだとなれば、管弦楽法の知識が作曲家のパレットというわけです。楽器の音というのは油絵具よりも水彩絵具に似ていて、重ね塗りをしても下の音は消えず、それぞれの楽器の音の特色を残したまま混合音になるので、種々の組合わせの混合音を覚えて置くことが必要です。

長年音楽をやっていて、絵画に興味にしている人を見ると羨ましく思うことがよくあります。絵画は独りで描いても兎に角作品が出来上りますし、出来上れば見てくれる人もいます。音楽は屋根裏で独奏しても瞬間的に音が消えてしまうので、自分でさえそれを生で聴くことは出来ません。まして作曲となると、いかに傑作をものにしても演奏家に取り上げられなければ永遠に陽の目を見ずに終わってしまうわけで、作った本人でさえ、楽譜に書いた心の中の音楽が実際にはどんな響きに聴こえるのかを確かめることさえ出来ないのです。この辺の事情から言えば、作曲は絵画よりは建築に似ていると言えるかも知れません。売れない建築家がいくら設計図を描いても建物

は出来ませんし、かりに建てられたとしても、工学的な基礎知識のない、表面の美だけを目指した設計図ならたちまち崩れ落ちてしまうでしょう。だから私のように、兎も角もアマチュアながら自分の意のままに動いてくれるオーケストラを持っているのは大変幸運なのですが、いかにせん、知識だけは他人に負けない自信はあっても、才能が無ければ作曲家にはなれないのです。

なんだか折角自分の歌を作って自分で歌ってみようという意気込みの貴方の氣勢を殺ぐようなことばかり書いてしまいました。しかし、矛盾するようですが、本当は作曲をするのに七面倒な知識など何も必要ありません。歌の旋律だけなら心のままに歌って格好がつけばそれで良いのです。楽譜に書いたり伴奏を付けたりするにはそれ相應の作曲学の知識が必要ですが、そんなことはいわば作品の跡仕末ですから、そこだけプロにやらせれば宜しい。偶然のことから知り合った札幌のある独り暮らしの才婆ちゃん、作曲への志望止み難く、自作の詩に付けた節を歌って聴かせてくれました。私がそれを採譜してNHK福井放送局主催のコンクールに応募した所がなんと採用されてしまいました。「北海娘を嫁にして」という演歌調の歌が今でも福井放送局から時々放送されている筈です。この才婆ちゃん、

もともと音楽は全くのドシロートで今でも楽譜など全く読めないのですが、今度はNHK札幌放送局主催の「北の賛歌」作曲コンクールに参加すると張り切っています。

たかが音楽、紀元前の時代から人間誰でも気が向くままに歌って来たのが音楽の原点です。現在がカラオケ時代だとすれば、この次には「あなたも作曲家時代」が来るかも知れません。マイコン技術を駆使すれば、将来は歌いさえすれば自動的に楽譜が出来上がったたり伴奏も付いたりする世の中になるのも夢ではありません（但し機械は馬鹿ですからベートーヴェンの代りにはありません）。時代に先駆けて「あなたも作曲家」、いかがでしょうか。



私とマル寿のふたご

吉田 勝太郎

折りにふれて住んでいる処を思い、ふりかえっては時の流れを感じます。生れた処で一生の大部分を有意義に過す人がおり、また他郷で生きぬく人もおります。

私もまた生れた土地を去って、ここ室蘭に住んでおります。しかし、武拾年余も過ぎたのに、数年前までは、やはり一抹の淋しさを感じておりました。若いときには将来に輝きを夢見ていたのですが、過ぎ去ったことは運命として心に受け入れていたからでしょうか。

数年前、天中殺ということばがテレビや週刊誌を賑やかにしたことがありました。私もまた、流行の尻馬にのって運命について興味をもち始めたのでした。

運命の予見の仕方には沢山の方法があるようですが、その中に生れた年、月、日、時間の夫々に、十干と十二支の符号を配して、その組合せで一生の出来事を判断しよ

うとする四柱推命術がありました。それは括まつており、体系づけられていて私には学問らしくさえ見えたのでした。

十干は、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸であり、十二支は、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥であります。私の生年月日は昭和4年4月24日なので四柱の図式を作って見ますと、

四柱	生年月日	干支
年柱	昭和4年	己巳
月柱	4月	戊辰
日柱	24日	己亥

となります。なお、時柱は生れた時間が確かでないので省きました。この図式で空亡（天中殺）を調べてみますと、空亡（天中殺）は辰と巳でありました。私の年柱（親に相当する柱）に巳があり、空亡となっており、同じように、月柱（同胞兄弟に相当する柱）に辰があり、空亡となっており、年柱と月柱のダブルの空亡（天中殺）で宿命の殺と云われるものの一つでありました。図式から見ると、小生は親との縁がうすく、また、兄弟姉妹との縁もうすく、親兄弟に頼ること能わず、というものでした。しかし幸いにも日柱は空亡でなく、更に図式に馱馬という移転の星も含まれており、小生が幼時に、父母がいたのに祖父母に育てられ、長男にも拘らず父母兄

第のいる故里^{フムサト}を遠く離れて、ここ室蘭で生きていたのも四柱推命が示したとおりだったのかと驚いた次第でした。

こうして小生はこの室蘭に住んでいるのが当然と考えるようになり、それまでの一抹の淋しさが消失したのでございます。

その頃でございます。私の医院の内科外来に、明治37年7月25日生れの一卵性双生児の患者さんが通院しておりました。

姓 名 初 診 月 日

○田○江さん 昭和47年1月23日

○田○雄さん 昭和49年4月4日

その初診の病名は、○江さんが糖尿病性腎症および脳動脈硬化症、○雄さんが糖尿病および脳動脈硬化症で、同一の病名といってもよろしいかと思えます。このお二人が引きつづいて通院加療されておりましたが、○江さんは57年2月16日に低血圧と心雑音を伴った貧血の併発で脱力感が著るしくなり、当内科に入院加療、一時は内服薬ものめない程弱りました。○雄さんは同じく57年2月15日に、嘔気を伴った反復するめまいおよび複視が出現し、脳硬塞(リンド)として当内科に入院しておりました。私にとってお二人の同時の入院は誠に異様に感じられました。お二人とも入院当初、重篤であったので相継いでなくなられるのであるまいかと、私は大変心配いたしましたし

た。双生児^{ツイン}なので運命は同一だろうとの考えがあったからでございます。

幸いにもお二人とも恢復され、○江さんは6月2日に、○雄さんはそれより二ヶ月も早い3月25日に退院することができました。その後、○江さんは、翌月の7月末に北湯沢の方に転入院され、暫らくののち亡くなられたとのことでございます。しかし○雄さんは、現在も元気に室蘭市内の外れから当内科に通院されております。80歳の去る5月頃までご自分で車を運転されておりましたが、その後、交通巡査さんに説得されて、バスなど利用されて二週おきにおみえになります。

ふたごのご兄弟が幽明の境を異にして今や3年の月日が流れました。私は○雄さんが長く生きてほしいと、心から念じて診療いたしております。

さてふたごなのはどうして生死を分けたのでしょうか。そして四柱推命は不確かな予知法でしょうか? ○雄さんは、先の退院後、通院時にはいつも奥さんとご一しよです。奥さんは左肩、上腕痛、腰背痛があるにも拘らず一生懸命に○雄さんの面倒を見ておられるようです。○江さんが退院後まもなく北湯沢に移られたことは前述しましたが、その連れあいと子供さん達の○江さんへの対応はどのようなものでした

うか。○江さんへのお世話についての配慮が足りなかったと云えないでしょうか。

マル寿のお二人への周囲の対応の違いがお二人の生死を分けたのではないかと私は思えるのでございます。

このように考えますと、運と云うものは必ずしも動かし得ないものではなくさそうでございます。その人の周囲が、よかれと思う意志、心、念に充ち満ちているならば、その人はより幸せに生きてゆけるのではないかと考えるようになりました。そして運が周囲の環境によってよりよい方に修飾されるという考えになりました。

四柱推命は十干と十二支とで図式を作ります。従がって数拾年前、及びその昔にも同一の図式の人が何人もおられた筈でございます。しかし、その昔の頃と現在とでは生存のあり方が全く異なっていると申せましょう。運命は環境によって修飾されるのはあるまいか、進化論的変遷を受けているのではないかと考えます。私達もまた、更に周囲の人がよかれと念じ、振舞うことによつて私達の運も更によくなることでありましょう。また、運のよい人達と時間を分かち合えば、よい運を少しばかり引き寄せることでしょう。おつき合いも更に楽しくなると思うのでございます。

(昭和60・8月)

『猫の話』

大鹿 徳洋

今までに三十八匹の猫を飼ったことのある愛猫家の加藤先生から「猫の話」という題での原稿の依頼があった。私自身はそれほど猫好きでもなく、それよりも、文章を書くのが苦手なので一度は辞退したが、とにかくなんでもよいからとのことなので結局引受けることにした。

最近はずっとブームとかでネコを飼う人がたいへんにふえている。テレビのコマーシャルでもネコの登場してくる場面がしばしばあり、たとえば、「山一証券」「サントリー」「住友生命」のコマーシャルにネコが登場するが、どうしてこれらの会社の商品がネコと関係があるのかさっぱりわからない。また新聞でもネコに関する記事をししばしば見かける。道新でも最近まで『それいけノチャトランズ』というタイトルでの連載物があつた。更には新聞の「生活欄」で、御丁寧にも「秋口はご用心」「ペットの健康管理」と題して、飼主に注意を促し

ている。それによると、秋口になると朝夕の冷え込みに夏の疲れが重なると、ネコでも簡単に風邪を引くそうだ。夏が終わると冬用の下毛がはえてくるなど、冬の準備が始まるので、えさの質も量も変えねばならない。質は蛋白質に注意する。専用フードのほかチーズ・ハムなどを与え、夜の冷えこみに備えて、毛布、電気あんかなどを用意する等々である。なんとも大変なことだ。ところで、最近のネコ・ブームの最たるものは、今夏の『子猫物語』であろう。「猫の暑いのは土用の三日だけ」というけれど『子猫物語』フィーバーは土用を過ぎててもいよいよ過熱するばかりで配収も邦画の日本記録を破るのは間違いないそうさ。なぜネコも杓子も『子猫物語』に詰めかけるのかわからない。むろん、猫が肥えれば鯉節が痩せるの例えで、あおりをくったのが、例年、夏休みにガッポリ稼ぐまんがまつりやディズニーマ映画らしい。いずれも猫の前のネズミという感じとか。

このブームに玩具メーカーが目をつけぬはずはないと思つたら、案の定、「電子ペットの猫」が出現した。これは手をたたくと頭をふり目をくるくるさせるもので、わが家のネコよりもよっぽどかわいらしい。そして、ペット・ブームの決定版ともいふべき、「ペットと暮らせるマンション」

が東京・荻窪に近々建設されるらしい。ペットがドアにはさまれないような特別センサーを付けたエレベーター、玄関口もペットが自由に入れるように工夫されており、病院や事故などには、昼夜獣医と連絡がとれるペット専用のインターホンもある。土足のかげらのために足洗い場だつてちゃんと設備されている。というのがキャッチフレーズで、売出しと同時に入居希望者は三百人をこえ、七倍の競争率とか。それにしても世の中変わったものだ。



犬や猫は、われわれにとつて最も身近な動物でありながら案外知らないことが多い。人間によつて最初に家畜化された野性動物はイヌで今から約一万二〇〇〇年前のこと、ネコやニワトリ、ウマなどは比較的新しい家畜とされている。

ネコと人間との出会いは、約五〇〇〇年前古代エジプト人が北アフリカのリビアネコ（野性ネコ）を飼いだしたものが、世界各地に広まったと伝えられている。

日本にもヤマネコの仲間がすんでいたことは学問的に明らかで、現在でも、ツシマヤマネコ（対馬）、イリオモテヤマネコ（沖縄の西表島）の２種が確認されており、特に昭和四十年に発見されたイリオモテヤマネコは、一属一種の新種で学問的にも貴重存在とか。

けれども、このヤマネコから現在のニホンネコが改良されたのではなく、奈良時代に仏教伝来とともに中国から渡ってきたネコが今のニホンネコの先祖ではないかといわれている。平安時代になると、当時の上流階級の間でネコを飼うことが流行し、「枕草子」「更級日記」などにも、ネコの飼育のようすがかかれている。その後は、一般でもさかんに飼われるようになり、特に江戸時代になると、黒ネコを「カラスネコ」あるいは「福ネコ」といって、幸福を招くネコとして珍重されたが、黒ネコに限らず商売をしている店では、「招きネコ」を飾り商売繁昌の縁起ものにしたのも江戸時代になってからである。

動物には、それぞれ特有な性格や習性がある。ネコの特徴は、肉食で夜行性、自分

のテリトリ（なわばり）をもち単独行動を好み、物音に敏感で、動くものに興味をもつことであるが、そのほかにも変った習性がある。

ネコがうれしい時にのどをゴロゴロ鳴らすことはだれでも知っていることで、これはネコには二組の声帯があるためである。下方のものが真の声帯でこれを使ってニャーニャー鳴いたりうなったりする。その上方にある顕著な膜は凝声帯と呼ばれゴロゴロ鳴らすときはここを使うらしい。

ネコはきれいな好きで、食事のあとには必ず、わさびおろし状のザラザラした舌で念入りに毛をすいたりして身づくろいをするが、時として抜け毛のみこんでしまい胃の中で毛だま（ヘア・ボール）になってしまうことがある。そこでネコは本能的に青草をたべてこの消化しきれない毛だまを吐き出してしまふのだ。

ネコの顔を見てもまず目につくのは、あの長いひげである。このひげはアンテナのようなもので大切な役目を持っている。たとえば、ある穴があつてその中に入ろうとするとき、その穴の入口がネコのひげの先端を結んだ円より大きい場合はなんのためらいもなくその穴に入っていく、そして暗闇の中ではひげをしきりに動かし、中のようすを探ろうとしている。

また、ひげの動きはネコの感情も表わすといわれ、ネコの背中をなでてやるとネコはからだだけではなくひげをいっばいに立てて喜びを表現し、気持ちよく安心して寝ているときはひげをダラリとさげている。そして、危険を感じた時はひげを後ろにさげて身構える。

日常よくみかける動作に爪とぎがある。これは気まぐれでやっているのではなく、ネコにとつては絶対必要なものでこれをやらないと爪が伸びすぎて足の裏にささり歩けなくなってしまうからだ。今は爪とぎ専用のスクラッチング・ポストが市販されており、これにはネコの好きなマタタビが仕込んでありネコは喜んで爪とぎをする。

さて、ネコを飼ったことのある人ならば一度は考えることはネコの年齢である。ところで、ネコの年齢はどのようにして数え人間の年齢にするか何歳に相当するのだろうか。一般的には妊娠期間の長さや歯によって比較している。ネコの一年目の誕生日は人間の十八歳から二〇歳に相当するらしい。しかし、一年以上経た成猫の換算のしかたはちよつと違っている。ネコは六、七年たつと繁殖能力が減少してくる。人間の女性でいえば四五歳から五〇歳に相当する。そうするとネコの一年は人間の五年になる勘定だ。

ところでネコはどの位生きられるのだろうか。ネコを自由に歩けるように放任しておくと普通は八〜九年（人間でいえば二〇歳十四〇歳〓六〇歳）であるが、食事その他に注意すれば十四〜五年（九〇歳）は生きられるといわれている。

わが家にネコが住みついたのは今から約二十年前のことで、これまで六匹のネコを



飼ったが、今は三匹が生活を共にしている。知人にいただいた一匹をのぞいて、いづれもすてられた子猫でミルクで育てた。このうちの一匹（体重六キロのオスネコ）が最近大病を患った。今年の五月末のある日、朝からどうもようすがおかしい。何もたべず水も飲まない。夕方までようすをみていたが尿もあまり出ない。念のため、体温を計ってみると36度（ネコの平熱は38〜39度）

しかない。動物の本を読むと36度5分以下というのはネコにとって緊急事態らしい。あわてて、夜ではあったが獣医さんに頼んで診てもらった。診察の結果、尿道に砂がたまり尿毒症になりかかっているとのこと。ネコにこんな病気があるとは夢にも思わなかった。早速、導尿し利尿剤を投与して入院することになったが、見通しは暗いとのこと、このネコを特にかわいがっていた家内は気も動転し、なんとか助けてほしいと無理なことを云っている。毎日導尿と補液を続けることになった。獣医さんの献身的な努力のおかげで三日目から、すこしづつ体温もあがり八日目によつと退院することが出来た。どうしてこうなったのか獣医さんにお聞きしたところ、過保護と食事に問題があり、ふとり過ぎ（ネコの平均体重は二・七〜四・五キロ）とおしかりを受けた。考えてみると、このネコにはよく刺身やシュークリームをたべさせていた。これがわるかったのか知れない。

さて、そのあとが大変である。これから健康管理に注意し食事療法を続けなければ再発するといわれ処方食（缶詰）を渡された。今は食事療法を続け毎日尿の量に注意している。

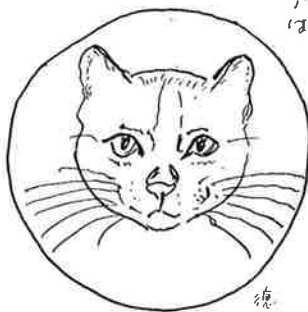
ネコに興味のない人にはなんともばかばかしい話かもしれない。

ところで、ネコにひきかえわが身の健康管理はどうなっているのだろうか、なんとも心細くなってきた。

〔出典〕不思議の国の猫たち（仁木悦子編）

ネコの飼い方・しつけ方（小菅和夫著）
ブリタニカ百科事典

ネコウヒケハ
ファンテア



富士山頂の 思い出あれこれ

高橋 陽 夫

富士山頂の三角点

富士山に登る人たちはたいいてい登山道を登りつめたところを頂上と思っているらしい。もっともそこには「富士山頂上浅間神社奥宮」と刻まれた白いみかげ石の石柱が立っているからでもあろう。しかし、奥宮からクレターの外輪添いに、更に歩くことおよそ二キロ、宮域より三六メートルほど高い剣が峰の標高三七七五・六三メートルを示す三角点に到達すれば、ここが名実共に富士山の頂上である。三角点には、標識として、すでに風化してさだかでないが上面に十字が刻まれた白い方形のみかげ石が置かれている。そのわきに「日本最高峰富士山剣が峰三七七六米」と刻まれた黒いみかげ石の石柱が立っている。三角点の標識と相対して、新田次郎の「芙蓉の人」で一躍有名になった、白いレーダードームのある世界一高い気象観測所が設けられてい

る。

一九八四年夏七月二十三日には、残念にも奥宮止まりで、お鉢めぐり（周回約四キロのクレター外輪を一周すること）も、剣が峰登頂もできなかったが、捲土重来、翌一九八五年七月二十七日には、見事念願の三角点に到達したのである。時に午後四時三十分。手元が凍え鼻水が出る。夢ではない現実である。三角点のわきに威儀を正し、西に向って直立、合掌、ようやく迫り来る冷気の中で、静かにもうやうやしく、朗々と般若心経を諷誦。今は無き妻と先祖代々の精霊、並びに北大医学部六期同窓生六十名中すでに物故した四十五名（いまは四十八名になっている）の精霊に回向し、併せて恵まれた健康を心から感謝することであった。

影 富 士

一九八五年七月二十七日富士山のとつぺん剣が峰にある三角点を下って、後半二キロのお鉢をめぐり、丁度朝日岳の山すそを抜けたときにはからずも前方眼下に現れたのは、広大な白い雲海の上に、はるか遠くかなたまで投影された富士である。すばらしくも巨大な厳かにも神秘的な影法師に魅せられ、思わず合掌、しばしわれを忘れて

この壮大な景観を楽しんだことであった。冷気迫る午後六時三十分のことである。

ふと、この陰影はちよつと小さいのではといぶかしく思ったのであるが、それは錯覚であつて、投影は富士の全容ではなく、雲海の上に聳えた部分だけであることに気がつき、すぐ納得したことであつた。いたずらに右手を高く挙げてみる。もちろん影の写ろうはずはない。人間とはなんと微小な存在であることか。三十分後にはこの巨大なまぼろしは暮れ行く宇宙にその姿を消すのである。

私は富士山に登って富士山を見た。

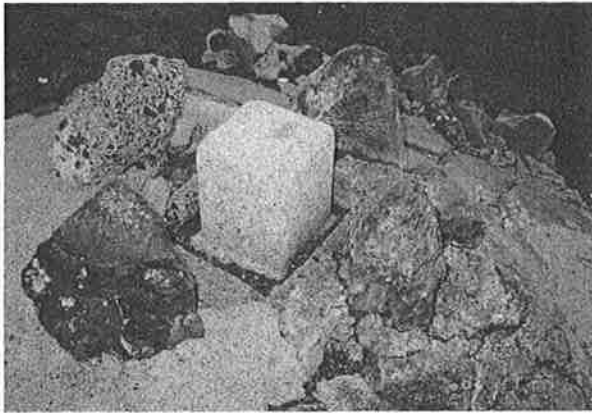
かくて、富士山頂を極め、富士登山の醍醐味お鉢めぐりを果したこの日一九八五年七月二十七日は、一九〇五年三月四日生まれの私にとつては感激と感謝、記念すべきまことに良き思い出の日となつたのである。

山小屋に一泊、翌早朝四時四十五分御来光と共に無事下山したのであつた。

ちなみに、本年（一九八六年）も七月二十六日に三角点を極めた。霊峰富士に憑かれたのでもあるまいが、富士山登頂はこれで連続三回ということになる。数え年七十歳以上で奥宮に参拝記帳すれば、登拝記念として、白扇の中央に朱の、太い輪郭のある直径八センチの丸い太鼓判、すなわち、右に富士左に頂上、中央に富士の紋様を頂

く大きな文字で奥宮の印が押され、その右側に国鎮、左側に無上嶽とそれぞれ上下いつぱいに大きく金泥で記され、裏面右側には直径四センチの丸い金の社紋の付いたお祝いの扇子がいただける。「ふもとの神社で買えないか」と言う御仁がいるが、さすが金満国日本の住人か、浅慮とやいうべき。

(一九八六・八・二〇)



三角点



影富士

北海道ドクターズゴルフ

第20回記念大会 に出場して

森川 亮

昭和61年7月13日早朝5時30分、北海道ドクターズゴルフ20周年記念大会に出場すべく恵愛病院前に集合した。遠藤先生の御好意により用意されたバスの中には阿部、菊入、児玉各先生の他、愛妻弁当をパクついて余裕をみせる松原先生が既に乗り込んで居り、遠藤、原田両先生が揃った所で出発となる。生憎霧と小雨がパラつく肌寒い天候であったが、車中では雑談から熱気を帯びたゴルフ談議に至ると時間がたつのも早いものでバスは高速道路を抜け会場の札幌エルムカントリークラブに到着した。

あわただしい雰囲気の中にも手慣れた大会関係者の指示で受付登録を済ませると懐かしい顔がこちらに現われて互いに固い握手をくり返す。パターの練習を始めた頃から雨と風が強くなってきた。聞くとそころによると前日より大雨警報が出ていたそ

うで、少なからずキャンセルもあつたらしい。昨年の第19回室蘭大会の悪天候を思い出し主催者側の無念な気持と苦勞が察せられた。念のため傘とカップ（合羽）を確認し予定より十数分遅れて東コースからスタートした。ラウンド中は前半霧と小雨で傘をさしたり閉じたりする状態であつたが、後半より天候も回復し、周囲の景色も次第に見えて来た。特に雨で洗われた白樺の葉の緑と幹の白さが鮮かで、幹に止まつているアカゲラの赤い頭が印象的であつた。コース自体は室蘭ゴルフクラブ白鳥コースに比べると征服しやすい感じである。それに雨のためボールが良く止まるグリーンコンディションなので優勝スコアは可成り伸びるだろう。だが思わぬ所に落し穴があり小生は痛恨のOBを二発打って自滅する。少しコースを甘く見たのが悪かつた。しかしメンバーには恵まれて思い出深い試合であつた。

表彰式及び懇親会は札幌グランドホテル2階金枝の間で盛大に行なわれた。山崎北海道医師会長より衆参同日選挙では道医推せん候補者は一名を除き全員当選を果すことが出来た事に対し謝辞が述べられ、続いて大会長の安倍札幌市医師会長より節目の第20回大会を札幌で開催したいがために第19回大会では室蘭に御無理を押しつけ大

変迷惑をかけた旨の挨拶があり、続いて待望の祝宴に入る。和気あいあいのムードの中で表彰式が始まつた。各クラスの優勝者は次の通りである。

一般の部（東コース使用）

Aクラス（H・C14まで）石山勇司氏（札幌）

Bクラス（H・C15以上）山本一男氏（苫小牧）

シニアの部（西コース使用）

Aクラス（H・C17まで）竹内四郎氏（岩見沢）

Bクラス（H・C18以上）三部重喜代氏（札幌）

※ H・C・ハンディキャップの略

室蘭勢では一般の部Bクラスで児玉先生が堂々8位に入賞したのが何よりの収穫でした。又シニアの部Bクラスでは松原先生が14位と健闘され日頃の實力を充分発揮されたのが注目されます。今回は20周年記念行事として当会発足当初より連続20回出場なさつた2名の先生に皆勤賞が、19回出場の先生5名に精勤賞がおくられましたが受賞されました先生方には心から敬意を表します。連続出場記録の火を消さない様これから充分健康に留意され記録に挑戦していただきたいと願う者であります。

第19回室蘭大会でも身にしみて感じてい

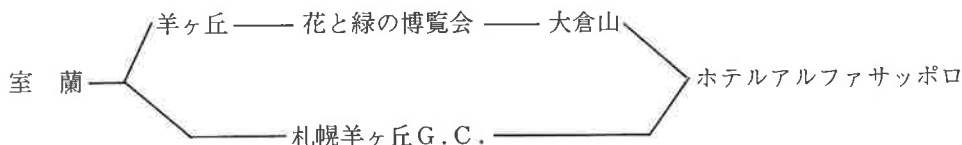
ましたが、札幌が開催地であつても出場者は思ったより少く、今後大会の継続が危ぶまれて来ているのが実状です。今回この危機を打開すべく北海道ドクターズゴルフ協議会なるものが設立され、協議により幹事医師会を決めて本大会を末長く継続させることになった事は誠に喜ばしい限りです。全道各地から会員が集まり、ゴルフを通じて友好と親睦を深める当大会は本州などでは到底考えられないユニークなものとして居り、末長く存続していただきたいものである。

次期開催地である藤岡函館市医師会長の歓迎の挨拶の中で第21回大会からは親父だけがゴルフを楽しむ時代ではなく、夫婦共に、又は一家で共に楽しい一日を過ごす工夫が大切だと云う大胆な提言があり、来年の函館大会は大いに期待出来そうである。来年は是非一緒に参加しませんか？（私はもう出場を心に決めていますが：）最後になりましたが大会の準備・運営にあられた札幌市医師会の関係者に心から御礼申し上げ、二十回の永きに亘つて後援されている武田薬品株式会社の御好意に感謝致します。

親交会旅行記

S.61.6.28~29

野幌開拓の村 ——— 北海道物産センター ——— 室 蘭



「札幌農学校は

蝦夷が島・熊が棲む…」

池 田 洋 二

六月二十八日、晴天に恵まれて、我々は札幌市野幌の開拓の村を訪れた。先ず、出入口となつている旧札幌停車場（明治四十一年から昭和二十六年まで親しまれた木造一部二階建の建物）の中へ。本州からの来訪者、特に、高校生の集団で賑つていたが三本の白線と桜星の徽章をつけた予科の制服をかぶつた私が、昭和八年四月十七日の朝、今日とは逆に、札幌駅を出て恵迪寮へと向かつた日を思い出す。当時の駅舎は、もつと広く大きかつたように思うが、今日の札幌停車場の内部は余り大きく感じられないのはどうしたことだろうか。

私は、この開拓村を訪ねるのはこれで二回目であるが、今回は、四月から公開されている旧恵迪寮を見るのを楽しみにしていたのだ。思い出深い予科三年間の生活の主なる場となつた恵迪寮は、駅の右手前にある旧近藤染舗（大正二年、旭川市、二階建）の道をへだて、さらに右側の木立の中にあ

つた。復元された恵迪寮は札幌農学校（北大の前身）の寄宿舎として建築され、明治四十年に恵迪寮と命名されたという。当時は、玄関棟と二棟二十六室および厨房棟があつたが、ここでは、玄関棟と二棟十二室を復元したと揭示板に書いてある。

新寮は昭和六年十月に建築されたものでスチーム暖房で、シャンドリヤと室内洗面所を設備し、当時としては相当モダンなものであつた。私は五十五号室の住人となつたのである。

さて、玄関を入つて右手の棟に入ると、階下、右角に炊務委員室があつた。ガラス戸棚の中の帳簿には一年下級であつた日下某、井上某の名が見えた。

階段を上ると、その踏板のささくれた古びた姿は、かつて、我々がストームの歌を唱いながら、スキーの尾端でドンドンと踏板を叩きながら昇降した夜を思い出す。昭和八年、新入生歓迎ストームも、十一年の我々予科卒業生の別れのストームも、この階段を通つて行なわれたのだ。

「醒めよ、迷の夢、醒めよ」廊下を唱いながら、「ストーム！」といつて、ドアを開け、電燈をつけ、ドヤドヤと入つて来る下駄ばきで揮ひとつる若者達、「アイン、ツワイ、ドライ」のかけ声と共に一本のスキーで調子をとりながら唱い、

且つ踊るのである。

「札幌農学校は蝦夷が島、熊が棲む

荒野に建てたる大校舎、コチャ

エルムの樹影で真理解く

コチャエ コチャエ……」

当時、入寮宣誓式を受けたのはどの部屋であつたのだろうか。その時の、委員長は池田満穂先生では、なかつたらうか。

次いで各室に入つて見る。昔懐かしい木のベッドが四つ、目に入る。箱型の上部に畳一枚をのせたもので、下は引き出しになつていた。このベッドの上に布団を敷くのでずり落ちるのを防ぐため、よくロープでくくつたものだ。

ちなみに本年四月、恵迪寮舎復元部会の会長、安井勉氏より書簡が舞い込んだ。内部展示の資料が不足で苦慮しているの、寮時代、炊務委員をされた各位に左記のことについて協力して頂きたいという文面であつた。

一、恵迪寮のエッセンについて

二、食事風景、炊務の顔ぶれ、その他の

写真

三、食事や炊務についての資料や器具類又、七月二十三日付、朝日新聞によれば恵迪寮史の続篇を来る十一月に発刊する予

定で、昭和八年より五十八年春、閉寮になるまでの五十年間をまとめているという。



旅行参加の記

大久保 淳子

医師親交会の親睦旅行と云うものに、今年、初めて参加させていただきました。

開拓村も見えたかつたし、「花と緑の博覧会」の名前に心惹かれたからだと思っています。

初見参の仁義として旅行第二日目の6月29日の見聞を書くようにとの事、これは予定外のことです。子供の頃の綴り方の宿題を思い出しました。

さて6月29日は札幌のど真中、レンガの色が素敵な「アルファ札幌」での目覚めです。ここは内装がとても落ち付いていて、色の調和に隅々まで心配りがされていて大好きなホテルです。室蘭田舎の小母さんもホテルの中を歩いていると、ナイスミディとやらになった気分になれるのも旅行の効用です。

朝食を地下の和風レストランで済ませ九時出発のデラックスバスに乗り込みます。ゴルフを選ばれた先生方が早々と出発されていて、バスの中は二人掛に一人づつ位のゆつたり乗車です。定時スタート。

車は円山の奥にある大倉山ジャンプ競技場へと向いました。薄曇りですが時々キラキラとお日様が光り、室蘭と違って空気がさらつとして気持ちの良い朝です。車は満面緑の円山公園を抜けてジャンプ台を目指します。ここも今は観光用にすっかり整備されていて私達は下方の駐車場で降ろされ圧倒されそうな高いジャンプ台を見上げながらリフトへと向います。

途中の広場に大野精七先生の顕彰記念碑があり、立派だなあと横目に眺めながら、足取り軽く登って行きます。パンフレットによるとジャンプ台は全長四四〇メートル標高差一三七メートル、最大斜度三十九度なそう、最上階のスタート地点上方の選

手控室の所までリフトがついていて一気に昇ります。但し、そのリフト乗場までの階段昇りで、すでに足はガクガク、心臓ドキドキで日頃の運動不足を痛感させられてしまいました。

リフトに乗る前はちょっと恐しい気がしましたが、いざ乗ってしまうとなんと面白く子供にかえった様な気分で、下方の土手に咲く紫や黄色の野の花や、背丈程もある蔦やイタドリを見下しながら四分間の飛遊を楽しみました。ジャンプ台の上からは札幌市街が一望に眺められます。薄曇りがかえって遠景が良く見え、左手には石狩湾が、右手には藻岩に連なる山脈が見えて居ます。でも一度直下のジャンプ台に目を転じますと、この上に雪が積り、スキーをはいた人間が滑り降りて行くなんて狂気の沙汰とは思われない位の急斜面なのです。テレビ中継でよく見かける競技進行の旗を振っている人が立っているカンテの上など想像を絶する恐しさではないかと思いました。帰路のリフトは札幌市内を眺めながら下ってきます。昇りの時よりも早い様に感じたのは慣れのせいでしょうか。

大倉山をあとにして円山球場近くに差しかかりましたら、今日、都市対抗野球の代表決定戦に「新日鉄室蘭」が出ているとのことで、日先生がお一人、途中下車して応

援に行きました。本当に気儘な旅と云った感じです。

このあとは今回の旅行の主題となつてゐる「86さつぽろ花と緑の博覧会」へとバスは札幌の中心部を横切り北へ北へと走りまゐります。進行に従つて、見たこともない街並ばかりになり、どこを走っているのか判らなくなつた頃、突然、バスは渋滞の真只中に巻き込まれてしまいトロトロと行つては止り、また思い出したように動き出すと云つた有様です。幹事の先生は時間を気にされて車の中を行きつ戻りつしておられますが後のサロン席では数人の先生が悠々と眠り込んで居られます。焦々派と悠々派を乗せたまま、そのうちバスは渋滞を脱出、やつと会場に辿り着きました。先ず一同で記念撮影をした後、帰りのバス乗り場と出発時間を確認ののち解散、会場内へ散々伍々入つて行きました。但し渋滞がたたつて此処での持ち時間は僅か一時間程。会場の広さが25万平方メートルと云いますから1万平方メートルを二分半位で見なければ全部を見られないわけで、私の会場見学は東ゲートから入つて西ゲートに出て終りです。

園内を巡るリリー・トレインに乗ろうと思つたら長い列。空しく待つよりもと歩き始めます。曇つていて風が吹いているのに半袖のブラウスで心地良い位ですから気温

は24度位でしょうか。開会二日目、最初の日曜日のせいか大勢の入場者でどこを見て人も人だらけ。花はサルビアの赤、マリーゴールドの黄、ペチニアのピンクと紫。ペコニアの白と、花の色を絵具に芝生の上に絵を描いてあると思えば良い様です。

百合はまだ殆んどが蕾で、期待して見たデルフィニウムも、いまに咲けばこんなのが咲く筈ですとでも云う様に一、二本、花が開いている株がある程度でした。

瀋陽庭園もまるで猿山みたいに、岩のあちこちに人が貼り着いていて風情を楽しむどころではありません。駆け足で「花と科学の広場」にある一本の木に沢山のトマトが実っているのを見ようと思いましたが、こども人の列に驚いてパス。主人と休憩所のテントに入つてソフトクリームをなめているうちにもう帰り時間になつてしまい、一行から離れて無料ピストンバスと地下鉄を乗り継いで、娘と待ち合せている三越前へと戻りました。期待の「花と緑の博覧会」は時間との戦になり残念でしたが「もう一回ゆつくりと見に来たいね」と云いながら帰つて来ました。

札幌はいつも用事があつて忙しく訪ねる街なのに、観光客になつてのんびりと訪れてみると又違った顔があり、お天気にも恵まれて本当に楽しい遠足が出来ました。

親交会ゴルフ

コンペ奮戦記

森田 益 聿

親交会ゴルフの奮戦記は、毎回優勝者が書くものと相場が決まっているのに、今回は児玉先生が二度目の優勝ということ、どう間違ったのか五位の私のところに原稿用紙が廻ってきました。順送りで準優勝者というのならわかるのですが、どうも合点が行きません。毎回下位を低迷しているのが五位入賞となつたので目をつけられたものらしい。

何をやっても不器用なのに、原稿用紙のマス目を埋めるなどとはもつてのほか、コースの状況、同伴プレーヤーのボールの運び方はおろか、自分のスコアさえ覚えていないのにと途方に暮れていると、児玉先生から当日の資料をお借りすることが出来ました。資料によるとコースの攻め方というコピーがありますが、これを見ても私の様な初心者には皆目見当もつきません。

ただ、変ないい方ですが、当日は漠然と今日は優勝するかも知れないという予感が

ありました。そのため一番スタートからスプーンを持ちました。何時もですと、距離は出なくてもフェアウエーキープは間違いないという確信みたいなものがあつたのですが、それが見事にはずれ右の林、ガケの途中まで落ちてしまいました。これが優勝を逸した最大の原因と思います。終り良ければすべてよし”ではなくて、初め悪ければすべて悪し”と完全に落ち込んでしまいました。

それでも、アウト60以上たかたかなかつたのがせめてもの救いでした。アウトを終った段階で優勝の野望を完全に捨てました。インではコンペのことを意識しないで気楽にプレーをしたのが幸いし、13番まで2アンダー、アウトが悪いから仕方がないやと茶屋でビールを飲んだのが良くなかつた。14番ティショットをOBラインぎりぎりの深いラフに入れてしまった。プレーイング4のあるところなのでキャデーは真面目に探してくれないし、後続がつまっているので、あきらめて前進、それが再度の落ち目で次のホールもOB、完全に戦意喪失、どうせ私の馬券は自分しか買っていないので人に迷惑をかけることもないだろうと、終って見たら56、ビールを飲まなかつたら50位であがれたかも、それこそ私が買った、たった一枚の②―⑤の大穴が出たかも知れない。

今回の馬梓順、成績順は別表の通りですが、皆さん大変ご苦労なさった様です。今回の馬券は②―③の本命で、当り券10枚、本庄先生が4枚買われたそうでおめでとうございます。帰りのバスには乗らなかつたので、その賞金の使途結果については全くカンチしません。

昭和46年、田舎の病院長をしていた時、どこかのプロバーが、フルセットを院長室にドカッと置いて行ったのがそもその始まりですが、手ほどきしてくれる人も居ないし、チャンスもないままバッグはホコリにまみれたまま。ところが一年位してから某外科医が赴任し、これがまた極めつけのゴル狂ち、土日の宿直は院長にまかせっぱなしでゴルフ場通い。これではならじと一念発起してはみたものの病院をあけるわけにも行かず……………。ところが、運が良かったのか悪かったのか、私の左大腿部に腫れ物が出来てしまいました。それを聞いた医局長が、古傷の再発かと心配してネーベンを一人出してくれました。幸い腫れ物は切開手術の後治りましたが、ネーベンはそのまま、これはチャンスとばかりネーベンに留守をお願いして、その外科医と初めてゴルフ場なるところに出かけましたが、何

しろ初めてずくめのこと、カラ振り、チヨロは言うに及ばず、水あびから砂あそびまで、こんな面白くないゲーム？スポーツがあらうとは思いませんでした。その後、釧路で開業し、五年位経った頃、鶴居のコースに連れて行かれ、大自然の中でのプレーの楽しさがわかる様になりました。それでも月一ゴルフの域は脱せず、良き師も得られず、それなりにハンディー37をいただし、釧路市医師会のコンペに一度優勝したことがあります。頭部の手術、閉院、出札と続きゴルフとも縁遠くなっていました。が、室蘭に来てから又グリーンが恋しくなり皆さんに迷惑をかけながらもプレーを楽しんでいます。ただ室蘭にはなじみが薄く、腕も未熟なので、声をかけてくれる人の少ないのが残念です。

追記、6月29日は児玉先生の55歳の誕生日とのことで、二重のおめでたでした。

成績表

1986.6.29 札幌羊ヶ丘G.C.

順位	N A M E	OUT	I N	GROSS	HDCP	NET
1	児 玉	4 7	4 3	9 0	1 6	7 4
2	森 川	4 6	4 2	8 8	1 1	7 7
3	熊 谷	4 9	5 0	9 9	2 0	7 9
4	皆 川	4 6	4 4	9 0	1 0	8 0
5	森 田	5 9	5 6	1 1 5	3 5	8 0
6	石 川	4 7	5 3	1 0 0	1 9	8 1
7	丸 田	5 1	5 5	1 0 6	2 4	8 2
8	三 村	5 2	4 7	9 9	1 5	8 4
9	鴨井(清成)	5 7	5 8	1 1 5	2 5	9 0
10	原 田	5 7	5 5	1 1 2	2 0	9 2
11	鴨井(清一)	6 5	5 5	1 2 0	2 8	9 2
12	斎 藤	6 2	6 8	1 3 0	3 6	9 4

馬(人)券枠順

1組	皆	川(10)	鴨井(清成)(25)
2組	児	玉(16)	丸 田(24)
3組	森	川(11)	鴨井(清一)(28)
4組	原	田(20)	熊 谷(22)
5組	三	村(15)	森 田(35)
6組	石	川(19)	斎 藤(36)

本命馬券 ②—③ 10枚

羊ヶ丘から帰蘭まで

事務局 青 木 茂

大倉山から花と緑の博覧会場へ向う途中の交通渋滞の後遺症で、博覧会場見学を終ってバスが羊ヶ丘目指して走り出したのは、予定時刻を30分超過の12時50分だった。今朝ホテルを立つ時に、今日はバスの発時刻に不在の方は中途離脱と見做すと予告はしたものの、やはり一応入念に人員を確認したらいろいろの離脱理由で一行は僅かに13人である。他の土地に較べて札幌は何によらず都合が良くて途中下車に拍車がかかった様だった。

昨日の夕食会場となった東苗穂の北海道物産センターを右手に見て、空腹の13人をのせたバスは南下を続け白石から環状通りに入り平岸のリング並木に見入りながら、やっと目的地の羊ヶ丘展望台に到着した。

ここは正式の名称を農林水産省北海道農業試験場と云いこの試験場の一隅に昭和34年札幌観光協会がこの「羊ヶ丘展望台」を造ったとかで「クラーク博士が遙か札幌市

街地を指さしている像の北の彼方に、遠く暑寒別岳や日本海が見えます」というガイド嬢の説明だった。成る程遠く薄青く山並みが霞んで見えた。(暑寒別岳の所在がわからず、帰蘭して調べてみたら近頃名前の出る雄冬のある増毛方面の高山群の一つで、室蘭から羊蹄山を望むより少し遠いくらいの距離があり、高さは一、五〇〇米位いだから、室蘭から標高一、九〇〇米の羊蹄山を望むのとは訳が違うことが判った)それよりも緑の放牧場で丸々と肥えた羊がゆつくりと草を喰む姿は、空腹の我身にとって可愛いというよりオイシソウであり、大皿に盛られた脂身点々の赤い肉のスライ스가脳裡を走るのだから何とも浅ましい。広いレストハウスは既に空き時間となっており、観光施設の食事ときのあの騒音もなくゆつたり座って落着いたムードであったが、いつもの成吉思汗パーティの賑々しい感じとひと味違っており、心なしか食べた肉の味も違う様に思われた。尤も、ここでは肉の焼き方にもキマリがあるらしく鴨居に縦一米横三米くらいの看板が下がり、それに古文書よろしく風格のある教科書体の文字で整然と肉・野菜の焼きたたから食べかたまで書いてあった。それによれば先ず熱した鍋(鋤鍋風)に脂をタツブリ塗ることだ上に大皿の野菜を全部盛り上げ、更

にその野菜の山の上に肉を全部敷きつめるのだそうである。要するに皿盛りの姿そのままを鍋の上に再現すれば宜しい。肉を鉄の上で直か焼きせず、熱した野菜の蒸気で肉を蒸しあげて、それを鉄の上で好みに焼いて大根オロシ入りのタレで召し上れというものだった。これだと味も違う訳だ。添えた男爵薯の塩ゆでと唐黍もたべて満腹し、ガイド嬢推奨のグランドホテルのアイスクリームを舐めながら百米程離れた教会風のウエディングパレスの入口で、当日何組目の結婚式を待つうち白い建物の中から新郎新婦と家族友人の一団三十余人余が式を終って出てきた。かたわらに白い小さな鐘楼があり、二人の鳴らす愛のチャペルがランガンと広い敷地一杯に拡がる。総勢の記念写真の後、白いクラウンのオープンカーに両人が乗り我々無関係者も加わった拍手の中、空罐の束を引きずって敷地内の一周旅行に出かけた。近頃はやりの高い天井からゴンドラに乗ってドライアイスの七色の煙の中に降臨しますオドロオドロしい披露の仕掛けと異なり、なんと爽やかな風景かなと見入った。緑の牧場の背景がその感を深めたのかも知れない。

やがてゴルフ組御一行が羊ヶ丘の料金所前に集合の報が入り帰路につく。御一同日焼けた満足気な面持ちで乗りこんできた。

これでやっとアチコチの空席も埋まりバス旅行の雰囲気に戻った。程なく道央自動車道に入ってバスは快調に走る。南下するにつれて空は雲の厚みを増してうすら寒そう。車内では例によってゴルフの表彰式と馬券ならぬ人券配当金の発表。昨日人券の多額の売上げに感謝して今夜は節制にあい努める旨宣言したK先生が順当に優勝したらしく、又人券の方は当選券をまとめ買いたH先生が円山球場で途中下車して新日鉄・大昭和戦の応援に行った為、喜びの声を聞く事ができなかった。が、聞かなくてもあの声が聞こえて来そう感じた。道央自動車道に入ると早い。用意した景品はカラオケ方式では捌ききれぬとみて、対向車の台数当てクイズを二―三回やってるうちに登別インターに着き予定通り五時過ぎには順次帰着し終った。それにしても天候に恵まれた旅行だった。翌日から全道的に六日も続いた雨空の事を思うにつけ、先生方なかなか精進が良かったのだなあと感心した次第である。本当に。

編集室へのお便り

御無沙汰致して居ります。

本日「波久鳥」六号わざわざ御送り頂き有難う御座居ました。写真などなつかしく拝見させて頂きました。先生方の御繁栄を祈り居ります。

日立市大久保町一丁目の三 稲葉 真

(60・11・15)

白雪の舞う頃となりました。

この度は「波久鳥」を御恵贈賜りありがとうございます。主人が他界いたしましたして九年にもなりますのにいつに変わらぬ御友情に……唯々感激の極みでございます。

年々素晴らしい御発展の会誌、たのしみじつくりと拝見させて頂きます。

御芳志厚く御礼申し上げます。可しこ

札幌市北区新琴似七条二丁目一の二〇―二一六 木谷 静子

(60・11・21)

なつかしい会報をお届け下さいましてありがとうございます。室蘭を離れて七年目

に入ります。

政太郎が逝き五年になりますが、亮介も現在北九州市の新日鉄病院勤務、長女に長男が生まれ、次女と二人で居ります。雪の室蘭をなつかしんで居ります。御発展を念じて居ります。

東京都大田区蒲田四丁目一十一

青山 芳江

(61・1・6)

前略、此度は又なつかしい雑誌「波久鳥」

をわざわざ御郵送下さって、有難く受取りました。畑の収穫も殆んど終り、あとは玉葱の苗の植付と、えんどうやグリーンピースの種子蒔を残すだけで、私の農閑期に入りますので楽しみに読ませていただき諸先生の面影を偲ぶ事に致します。

今年も八月初めに墓参のため洞爺湖畔を訪ねましたが、家内が昨年から脚力が弱って歩行不自由になりましたので、留守中が心配で、室蘭にも、何処へも寄らず急いで帰宅致しました。私は相変わらず健在、あちこちへ引張り出されて、少しはお役に立って居ります。その余暇を利用して畑仕事を楽しんで居ります。今年は七月一日夜中に襲来した台風の塩害で野菜類は殆んど全滅に近く僅かにさつま芋だけは助りましたが梅の実を除く栗、柿、密柑などの実も落ち

て、不作となりがっかりして居ります。

北海道や東北の各地では早や雪の便りを聞きましたが、南房州は未だ晩秋の季節で朝晩は大部寒くなりましたが晩秋の秋晴続きで日中は未だまだ暖かく日なたぽっこりは最適の此頃です。菊の花が満開で、さざんかの花も咲き始めました。

諸先生には呉々も御身御自愛下さるよう宜しく伝えて下さい。一筆受取の御礼と近況のお知らせまで。

千葉県千倉町瀬戸二・三六〇

高橋 清蔵

(60・11・16)

雪の訪れと共に寒さが身に沁みる頃となりました。この度は「波久鳥」六号を御恵送下され誠に有難うございました。回を増す毎に内容が充実され一人感慨深く拝読させて頂きいただきました。今迄続いた「古いお話」も北原の永遠の旅立ちでとうとう終りましたね。いつも仲々構想がまとまらず期限ギリギリに、加藤先生、大久保先生のお宅にお届けした事をなつかしく想い出して居ります。御心にかけていただき厚く御礼を申し上げます。

室蘭市海岸町二丁目四の十七

北原 栄子

(60・11・15)

会 員 異 動

昭和60. 9～61. 8

年 月	事由	氏 名	備 考
60. 12	逝 去	松 川 徹 一	室蘭市本輪西町 3-26-13
61. 4	〃	皆 川 英 貞	登別市中央町 2-12-1
61. 4	転 出	車 田 英 敏	岩手県水沢市朝日町 1-5 ☎0197-25-4345
61. 4	〃	伊 藤 紀 克	帯広市西 8 条南 17 丁目 3 帯広光南病院
61. 7	〃	山 本 健三郎	函館市海岸町 24-4 函館港湾合同庁舎内 函館検疫所 ☎0138-41-2141

編 集 後 記

波久鳥の出る頃は室蘭の四季で一番良い秋です。十月三日に開通した新登別大橋からの紅葉と藍に染まった急流の織りなす景觀は素晴らしく一見に値します。今秋は初夏の低温の影響か山の幸が少なく山親父による被害が頻繁に報じられています。

波久鳥も号を重ねて七号になりました。七号といえは小学一年生に相当しますがこの間諸先生の御支援により着実に成長し、内容、装丁、カット等にはれぱれするのには編集スタッフのみでしょうか。

本号より名編集長振りを發揮されていた加藤治良先生が文筆に専念したいとその席を大久保洋平先生にバトンタッチされました。

五号迄旅情あふるる歌を寄稿されておりました皆川英貞先生と松川徹一先生が亡くなられました。謹んで両先生の御冥福をお祈り致します。

話題欄の「男か女か」は恐らく歳末の重大ニュースベスト 10 に入るトピックス、倫理問題も絡め、吉井先生独得のユーモアを交え時宜を得た論説。恒例の座談会は益々佳境に入り本誌の目玉になりました。今回

は司会の三村先生をはじめ個性派による座談、談論風発、鋭い目が光りました。さて次号は？

毎号連載の加藤先生「大正つ子物語」、安斎先生音楽シリーズ「あなたも作曲家」有難うございました。「たかが○○、されど○○」という共通点が感じられます。趣味も実に多岐多様に亘りその造詣の深さに驚かされます。その内に一号より編纂すると豪華な趣味講座が出来るのでは。

号を追って沢山の原稿がバランスよく寄せられ感謝しております。今回勤務医の先生からの投稿が少なかったのは一重に編集委員の責と感じています。今後どしどし寄稿されますよう期待しております。

(児玉直彦記)

「波久鳥」七号編集委員

加藤 治良

村井 玄乙

澤山 豊

児玉 直彦

遠藤 秀雄

神島 章

三村 博通

大久保 洋平

青木 茂

親交会会誌 波久鳥

発行日 昭和六十一年十一月十日
発行所 室蘭市医師親交会
印刷所 室蘭印刷株式会社